

11R 1545	レパードステークスG33歳OPEN 606 599 593 590 558 524 16.3 4.6 15.4 9.4 43.7 76.5 太啓 石脩 三皇 内博 福祐 北宏		11R 1535	小倉記念G33歳上OPEN 752 727 679 651 627 618 12.0 4.7 20.8 5.9 13.9 5.2 浜俊 Mデ 和竜 アド 蛭正 池謙	
-------------	--	--	-------------	---	--



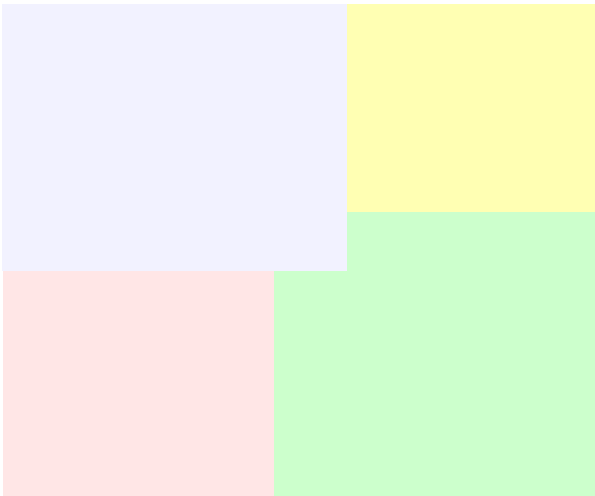
# 未勝利

2018年08月05日札幌01回04日01R0955発走 未勝利 2歳未勝利馬齢1500芝 08頭

芝良:  
芝稍:  
芝重:  
芝不:  
ダ良:  
ダ稍:  
ダ重:  
ダ不:

逃:25%-12%- 9%:  
先:48%-33%-33%:  
差:19%-38%-40%:  
追: 6%-15%-16%:  
逃差先:6%- -:0点  
逃先差:6%- -:0点  
先追先:5%- -:0点  
先差追:5%- -:0点  
先差差:5%- -:0点  
先差逃:5%- -:0点

札幌1500芝:直170m角243m直292m角528m直266m坂000m

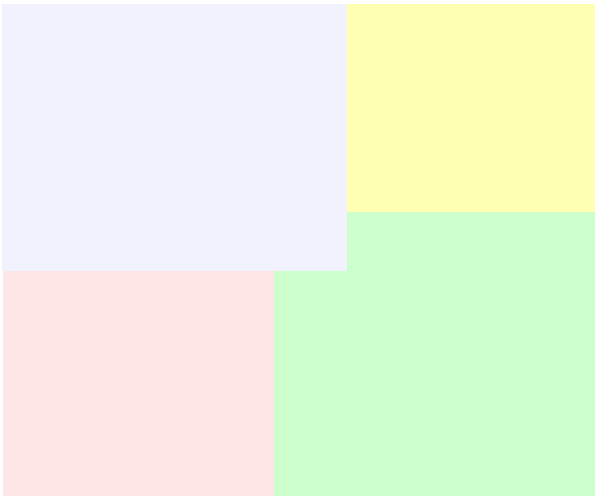


JRAで唯一組まれている距離で、札幌競馬場を象徴する特殊なコース。スタート地点は1コーナー横にあるポケット。スタート後、約170m斜めに走り向正面直線に合流。札幌競馬場の芝コースは高低差が0.6mと小さく、全周にわたりほぼ平坦。また、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、3~4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離はAコース時が266.1m、Bコース時が267.6m、Cコース時が269.1m。芝は洋芝。全体的には中山芝1600mに似たようなコース形態になっている。前半の2.5ハロンはペースが速く、クラスを問わず2.9秒5が水準時計。その後は中盤からゴールまで一定のペースで進むことが多い。脚質別成績を見ると、Aコース時は逃げ馬が圧倒的に強い。ところがBコース、Cコースになると逃げ馬が壊滅。先行馬と差し馬がそれぞれ互角の活躍。追い込みは常に厳しい。枠順傾向は中山芝1600m同様、内枠が有利。フルゲートは14頭だが、スタート直後にコーナーがあるので外枠の馬は、外々を回らされて不利になる。外枠の差し馬は割引が必要。内枠の馬同士で決まり、大波乱という結果もめずらしくない。要求される距離適性は、マイルよりやや短め。平坦コースのせい、1400mがベストの馬でも対応しやすい。種牡馬傾向はスペシャルウィーク、サクラバクシンオー、タイキシャトル、クロフネらが上位拮抗。グラスワンダー、アグネスタキオン、フジキセキはあまりよくない。クラス別水準ラップ(2.5F-2F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別(29.7-24.6-35.6=1.29.9)、3歳以上500万(29.5-24.0-35.9=1.29.4)、3歳以上1000万(29.6-23.9-35.5=1.29.0)、3歳以上準OP特別( )、3歳以上重賞( )



# 未勝利

2018年08月05日札幌01回04日02R1020発走 未勝利 3歳未勝利馬齢1000ダ 12頭



ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:32%-21%-7%:  
 先:55%-52%-17%:  
 差:10%-21%-42%:  
 追:1%-4%-32%:  
 逃先差:12%--:0点  
 先逃差:11%--:0点  
 先先差:10%--:0点  
 逃先追:10%--:0点  
 先先追:7%--:0点  
 逃差追:7%--:0点

札幌1000ダ:直284m角451m直264m坂000m

スタート地点は向正面左、2コーナー出口付近。3コーナーまでの距離は約280m。札幌のダートコースは高低差がほとんどないのが特徴。ローカルの競馬場は、一般的に平坦コースと言われているが、実際にはコース全体で高低差が少しある。その中でも札幌のダートコースの高低差は0.9mと、JRA全10場の中で新潟ダートコース(0.5m)に次いで2番目に少ない。加えて、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、3~4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離は264m。テンから目一杯飛ばして、そのままだれ込むレース。前述したようにカーブが緩い分、純粋にスピードの絶対値が問われ、逃げ~先行馬が断然優勢。前に行った馬はなかなか止まらない。行った行ったのケースも多く、単調なレースになりやすい。ただ、これはレースの大半が未勝利戦や500万クラスであることも大きいはず。枠順傾向は4枠より内がいい。外枠は2着止まりのケースが多くなる。種牡馬成績はキングカメハメハ、クロフネ、スクワートルスクワート、サウスヴィグラスが上位。サクラバクシンオー、ワイルドドラッシュ、フジキセキはひと息。かつて強かったフォーティナイナーは近年、500万クラス以上での好走が少なくなった。クラス別水準ラップ(2F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(23.4-35.7=59.1)、3歳以上1000万(23.1-35.4=58.5)、3歳以上準OP・OP特別( )、3歳以上重賞( )

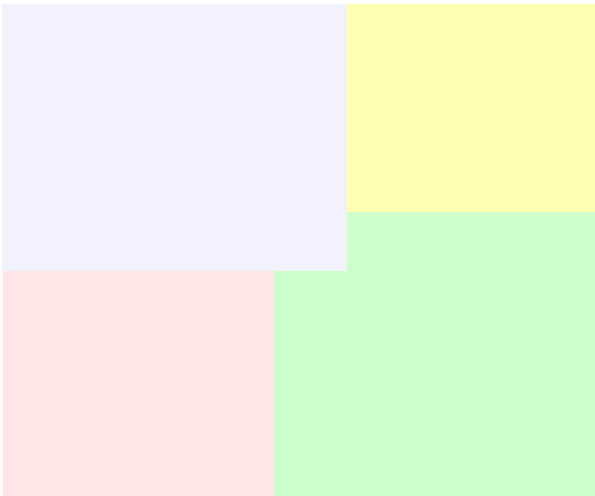


# 未勝利

2018年08月05日札幌01回04日03R1050発走 未勝利 3歳未勝利馬齢1700ダ 14頭

ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:23%-15%-14%:  
 先:66%-53%-21%:  
 差:8%-26%-40%:  
 追:0%-5%-23%:  
 先先差:11%--:0点  
 先先先:9%--:0点  
 逃先差:9%--:0点  
 先先追:8%--:0点  
 先逃差:8%--:0点  
 逃先追:8%--:0点

札幌1700ダ:直240m角451m直292m角451m直264m坂000m

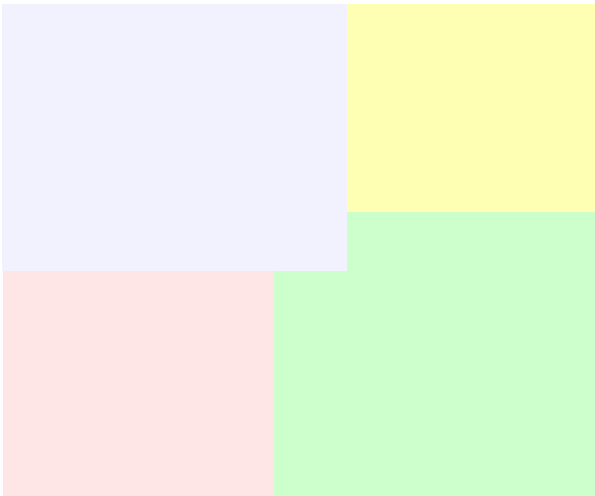


スタート地点は正面スタンド前直線右、ダートコースを1周強回る。最初の1コーナーまでの距離は約240m。札幌のダートコースは高低差がほとんどないのが特徴。ローカルの競馬場は、一般的に平坦コースと言われているが、実際にはコース全体で高低差が少しある。中でも札幌のダートコースの高低差は0.9mと、JRA全10場の中で新潟ダートコース(0.5m)に次いで2番目に少ない。加えて、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、3-4コーナーははかり緩やかなカーブ。最後の直線距離は264m。3歳以上重賞の水準ラップと勝ち時計はG3のエルムSを対象。高低差が少なく、コーナーのカーブが緩いコースらしく、全体的に速い時計が出る。スタート後の500mははかり速い。向正面に入ってもペースはあまり落ちず、そのあとゴールまで一定の速いペースで推移。スローペースの上がり勝負にはほとんどならない。スピードの持続力に長け、ダートの高速決着に対応できるスピードタイプの馬でないが、札幌ダートの主力条件で、重賞以外のクラスでも多くのレースが組まれている。脚質は好位につけられる先行馬が最も有利。逃げ馬も悪くない。差し馬はコーナーでマクリ、4コーナー-出口まで好位に押し上げられるタイプでないとなかなか勝てない。枠順の有利・不利はあまりない。種牡馬成績は、シンボリクリスエス、クロフネ、アフリート、マンハッタンカフェ、ワイルドラッシュらが上位。クラス別水準ラップ(2.5F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(30.1-37.9-38.2=1.46.2)、3歳以上1000万(30.0-37.9-37.1=1.45.0)、3歳以上準OP・OP特別(29.8-37.0-37.0=1.43.8)、3歳以上重賞(29.7-37.0-36.4=1.43.1)



# 未勝利

2018年08月05日札幌01回04日04R1120発走 未勝利 3歳未勝利馬齢2000芝 16頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:17%- 5%- 7%:  
 先:48%-47%-11%:  
 差:28%-35%-45%:  
 追: 5%-11%-35%:  
 逃先追:11%--:0点  
 先先追:10%--:0点  
 先差差:8%--:0点  
 先先差:8%--:0点  
 先差追:7%--:0点  
 差差差:5%--:0点

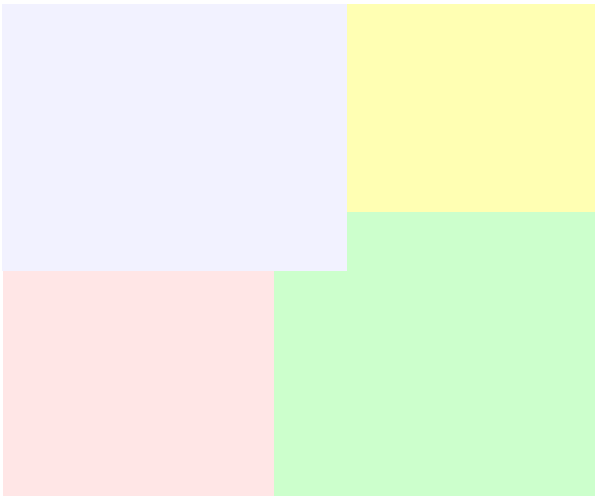
札幌2000芝:直385m角528m直292m角528m直266m坂000m

スタート地点は正面スタンド前直線の4コーナー奥ポケット。スタンド前の直線を大きく横切り一周する。最初のコーナーまでの距離は約380m。札幌競馬場の芝コースは高低差が0.6mと小さく、全周にわたりほぼ平坦。また、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、1-2コーナー、3-4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離はAコース時が266.1m、Bコース時が267.6m、Cコース時が269.1m。芝は洋芝。競馬場全体をフルに使う癖がないコースだ。最初の1コーナーまで距離があることと、1ハロン伸びた分だけ芝1800mよりはペースは落ちやすい。スローペースになればその分、一瞬の切れが必要になる。ただ、一般的には平均ペースが多い。クラスが上がるごとに中盤3ハロンのペースは厳しくなる。上がり3ハロンはどのクラスも3.5秒台が水準。力が要る洋芝の影響もあり、全体の時計は函館より若干速い程度。G2の札幌記念でも2分0.0秒台を切るとは限らない。脚質的には逃げ~先行馬が有利。特にAコース時は強い。Bコース、Cコースでは逆に逃げ馬はやや厳しく、先行馬がいい。差し-追い込み馬は、マクリながら前に進出することが求められる。また、脚質に限らず洋芝適性は必須。コース形態的に枠順の有利・不利はあまりなさそうだが、実際には上のクラスに行くほど中枠より内が有利。フルゲート(16頭)の際の12番ゲートより外は不振だ。種牡馬成績はシンボリクリスエスが筆頭。単・複回収率も高い。以下、スペシャルウィーク、マンハッタンカフェ、ホウイトマズル、ジャングルポケットらが上位。エルコンドルパサー、ウォーエンブレム、ティンバーカントリーなどのミスターブロスベクター系は、札幌芝1800mでは不振だったが、ここでは浮上してくる。ダンスインザダーク、アグネスタキオンはよくない。クラス別水準ラップ(3F-4F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( ), 3歳以上500万(35.6-50.8-35.9=2.02.3)、3歳以上



# 新馬

2018年08月05日札幌01回04日05R1210発走 新馬 2歳新 馬馬齢1800芝 11頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃: 7%-11%-23%:  
 先: 68%-48%-25%:  
 差: 18%-26%-35%:  
 追: 5%-13%-15%:  
 先先差: 9%--:0点  
 先差差: 7%--:0点  
 先先追: 7%--:0点  
 先先先: 6%--:0点  
 差先先: 5%--:0点  
 先追逃: 5%--:0点

札幌1800芝: 直185m角528m直292m角528m直266m坂000m

スタート地点は正面スタンド前、ホームストレッチの半ば付近で、最初のコーナーまでの距離は約180m。札幌競馬場の芝コースは高低差が0.6mと小さく、全周にわたりほぼ平坦。また、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、1-2コーナー、3-4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離はAコース時が266.1m、Bコース時が267.6m、Cコース時が269.1m。芝は洋芝。1コーナーまでの距離が短いため、最初の1ハロンのペースはやや速い。2ハロン目は当然速く、ペースが落ち着くとしたらその後の向正面の直線。ただ、極端には緩まずに一定のペースで流れることが多い。上がりの競馬にはあまりならない。脚質的には逃げ~先行馬が有利。ただし、仮欄がA B Cと移動するにつれて逃げ~先行馬の成績は下がり、差し馬が台頭する。開幕週・Aコースの条件下で行われるクイーンSは逃げ馬の天下となっている。枠順は基本的に内がいいが、内で出脚が悪いとへこまされて簡単に位置取りが悪くなるので諸刃の剣。中枠から先行できるタイプが最もリスクが少ない。種牡馬成績はスペシャルウィーク、ダンスインザダーク、フジキセキ、ネオユニヴァース、ステイゴールド、マンハッタンカフェらサンデーサイレンスの系統が強い。キングカメハメハらミスタープロスペクター系はひと息。 クラス別水準ラップ(3F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(36.3-37.3-36.2=1.49.8)、3歳以上500万(37.0-37.2-35.6=1.49.8)、3歳以上1000万(36.4-37.2-35.6=1.49.2)、3歳以上準OP・OP特別( ), 3歳以上重賞(36.0-36.5-35.5=1.48.0)

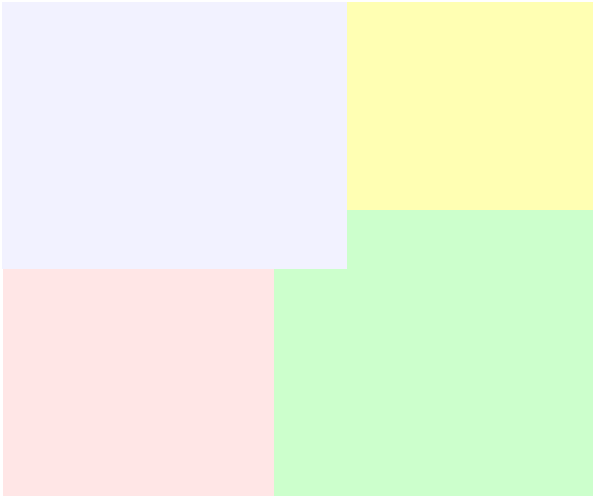


500万

2018年08月05日札幌01回04日06R1240発走 500万 3歳上500万定量2400ダ 12頭

ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃: 6%-31%-18%:  
 先: 50%-68%-31%:  
 差: 43%- 0%-50%:  
 追: 0%- 0%- 0%:  
 先先差: 31%--:0点  
 差逃先: 18%--:0点  
 差先差: 12%--:0点  
 差先逃: 12%--:0点  
 先先先: 6%--:0点  
 先逃先: 6%--:0点

札幌2400ダ:直000m角000m直000m坂000m



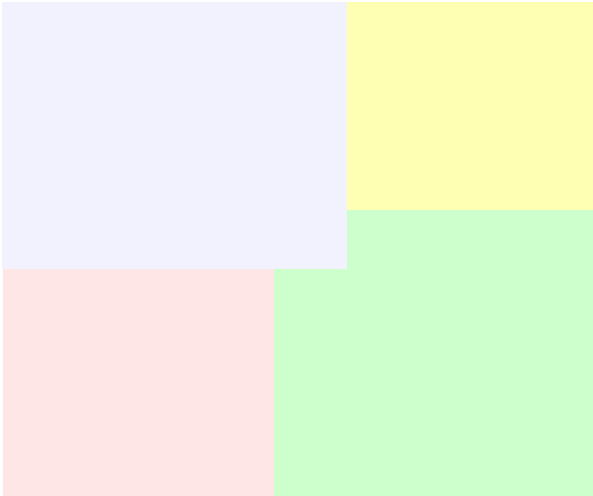
スタート地点は向正面直線の真ん中付近。コース全体を約1周半回る。最初の1コーナーまでの距離は約197m。札幌のダートコースは高低差がほとんどないのが特徴。ローカルの競馬場は、一般的に平坦コースと言われているが、実際にはコース全体で高低差が少しある。その中でも札幌のダートコースの高低差は0.9mと、JRA全10場の中で新潟ダートコース(0.5m)に次いで2番目に少ない。加えて、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、1~2コーナー、3~4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離は264m。現在は古馬500万クラスの平場戦でのみ施行されているマイナーな条件。年間2、3鞍しか組まれていない。スタート直後からの3ハロンと、続く3ハロンのペースはほぼ同じ。ただし、ここでは函館ダート2400mよりもそれぞれ1秒時計がかかっている。その分、ラスト3ハロンの時計が速く、500万クラスの水準が3.8秒台。全体の時計は函館ダート2400mとほぼ同じだ。2周目の3コーナーの残り600m地点から各馬が押っつけにかかり、ラストスパート。そこからゴールまで追い通しとなる。勝つような馬は最後の直線入り口の地点で1、2番手につけており、直線に入ってから隊列が激しく入れ替わるようなことはない。ただ、一本調子でなだれ込む逃げ馬には厳しい条件で、最後にピリッとした末脚は必須。勝ち馬は大抵、メンバー中3位以内の上がりを使っている。近走、ダートの1700mや1800mで追い込んで届かず、惜敗しているような馬が面白い。枠順の有利・不利はない。種牡馬傾向はブライアンズタイム、チーフペアハートが好成績。モンジョーやデザートキングといった海外の長距離G1で実績がある血統が来ていることから、スタミナがある血統がいいだろう。クラス別水準ラップ(3F-3F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(3.8.3-3.8.4-4.0.0-3.8.7=2.3.5.4)、3歳以上1000万( )、3歳以上準O



2018年08月05日札幌01回04日07R1310発走 500万 3歳上500万定量1700ダ 11頭

ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:23%-15%-14%:  
 先:66%-53%-21%:  
 差:8%-26%-40%:  
 追:0%-5%-23%:  
 先先差:11%--:0点  
 先先先:9%--:0点  
 逃先差:9%--:0点  
 先先追:8%--:0点  
 先逃差:8%--:0点  
 逃先追:8%--:0点

札幌1700ダ:直240m角451m直292m角451m直264m坂000m



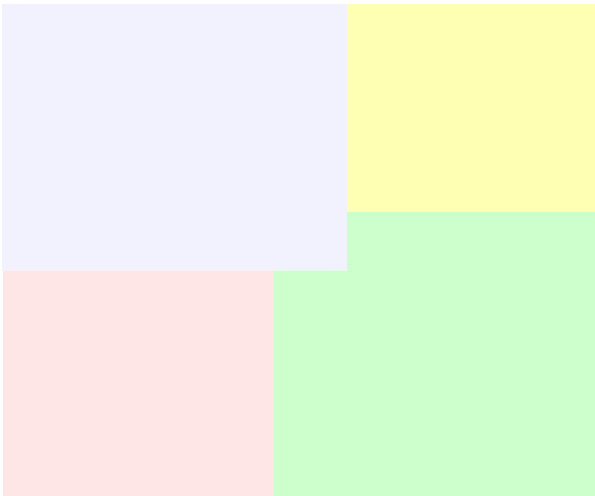
スタート地点は正面スタンド前直線右、ダートコースを1周強回る。最初の1コーナーまでの距離は約240m。札幌のダートコースは高低差がほとんどないのが特徴。ローカルの競馬場は、一般的に平坦コースと言われているが、実際にはコース全体で高低差が少しある。中でも札幌のダートコースの高低差は0.9mと、JRA全10場の中で新潟ダートコース(0.5m)に次いで2番目に少ない。加えて、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、3-4コーナーははかり緩やかなカーブ。最後の直線距離は264m。3歳以上重賞の水準ラップと勝ち時計はG3のエルムSを対象。高低差が少なく、コーナーのカーブが緩いコースらしく、全体的に速い時計が出る。スタート後の500mははかり速い。向正面に入ってもペースはあまり落ちず、そのあとゴールまで一定の速いペースで推移。スローペースの上がり勝負にはほとんどならない。スピードの持続力に長け、ダートの高速決着に対応できるスピードタイプの馬でないが、札幌ダートの主力条件で、重賞以外のクラスでも多くのレースが組まれている。脚質は好位につけられる先行馬が最も有利。逃げ馬も悪くない。差し馬はコーナーでマクリ、4コーナー-出口まで好位に押し上げられるタイプでないとなかなか勝てない。枠順の有利・不利はあまりない。種牡馬成績は、シンボリクリスエス、クロフネ、アフリート、マンハッタンカフェ、ワイルドラッシュらが上位。クラス別水準ラップ(2.5F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(30.1-37.9-38.2=1.46.2)、3歳以上1000万(30.0-37.9-37.1=1.45.0)、3歳以上準OP・OP特別(29.8-37.0-37.0=1.43.8)、3歳以上重賞(29.7-37.0-36.4=1.43.1)





500万

2018年08月05日札幌01回04日08R1340発走 500万 3歳上500万定量1200芝 16頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:21%-10%-13%:  
 先:35%-48%-25%:  
 差:35%-27%-40%:  
 追:7%-13%-21%:  
 逃先差:7%--:0点  
 差差差:6%--:0点  
 先差差:6%--:0点  
 先先先:6%--:0点  
 逃先追:6%--:0点  
 差先差:5%--:0点

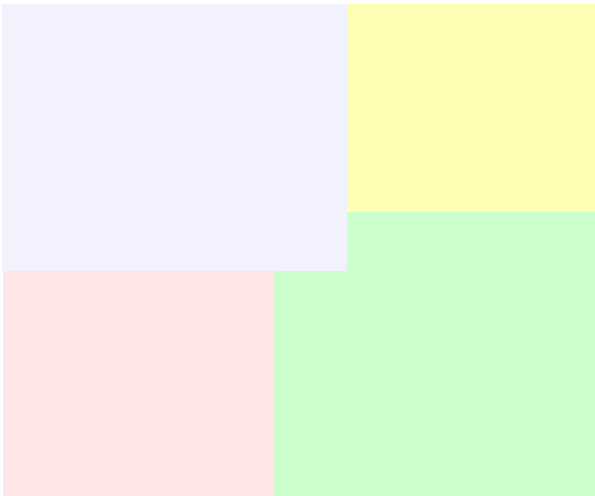
札幌1200芝:直405m角528m直266m坂000m

スタート地点は向正面直線2コーナーから少し左に入ったところのポケット。最初の3コーナーまでの距離は約400mある。札幌競馬場の芝コースは高低差が0.6mと小さく、全周にわたりほぼ平坦。また、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、3~4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離はAコース時が266.1m、Bコース時が267.6m、Cコース時が269.1m。芝は洋芝。各クラスで頻繁に組まれており、札幌開催の番組の中心を担う条件。テンから飛ばす前傾ラップのレース。ゴール前は平坦でも最後は凌ぎ合いで、ラスト1ハロンの時計がかかる。時計の出方は開催日によって違ってくるが、函館開催時期に比べて雨で道悪になるケースは少ない。洋芝でもスピード重視。脚質的には基本的に逃げ~先行馬が有利。ただし、A B Cと仮欄が外に行くほど、逃げ馬の成績はやや悪くなる。枠順は真ん中より内が有利。馬番で言うと10番以内がベスト。8枠は不利で、すんなり先手を奪えそうな馬でないと厳しい。種牡馬成績はサクラバクシンオーが筆頭だが、500万クラス以上では2着が多くなっているの注意。スウェプトオーバーボード、シンボリクリスエス、スペシャルウィークが勝ち鞍・配当的に妙味。タイキシャトル、ボストンハーバーは不振。クラス別水準ラップ(3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(34.5-35.6=1.10.1)、3歳以上500万(33.9-35.8=1.09.7)、3歳以上1000万(34.0-35.2=1.09.2)、3歳以上準OP・OP特別(33.6-35.0=1.08.6)、3歳以上重賞(33.8-34.6=1.08.4)



500万

2018年08月05日札幌01回04日09R1415発走 500万 3歳上500万定量2600芝 14頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:16%-9%-16%:  
 先:51%-54%-45%:  
 差:25%-25%-19%:  
 追:6%-9%-19%:  
 先先追:16%--:0点  
 逃差先:12%--:0点  
 先先差:9%--:0点  
 先先先:6%--:0点  
 先先逃:6%--:0点  
 先逃先:6%--:0点

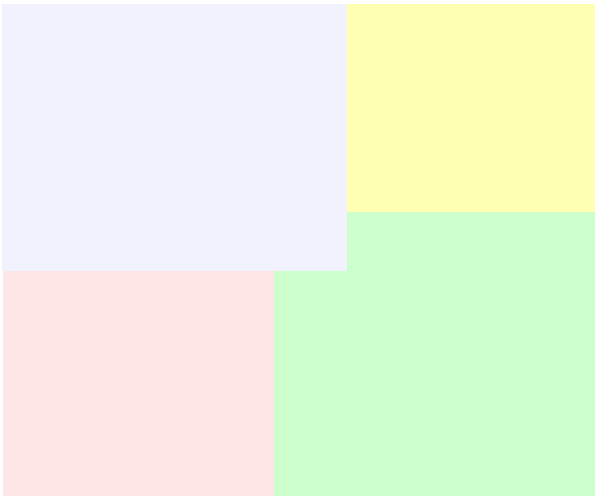
札幌2600芝:直164m角528m直292m角528m直292m角528m直266m坂000m

スタート地点は向正面直線半ば、スタート後、約160m直線を走ってから1周目の3コーナーカーブに差し掛かる。コース全体を1周半グルリと回るレースで、札幌競馬場における最長距離競走。同競馬場の芝コースは高低差が0.6mと小さく、全周にわたりほぼ平坦。また、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、1~2コーナー、3~4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離はAコース時が266.1m、Bコース時が267.6m、Cコース時が269.1m。芝は洋芝。最初のコーナーまでの距離が短いこともあり、序盤の主導権争いはポイント。最初の3ハロンの方が、次の3ハロンより速く、一周目の正面スタンド前に入ったところでようやく隊列が落ち着く。1~2コーナーから2周目の向正面の途中までさらにペースが落ち、その後3コーナー過ぎからペースアップ。あとはゴールまでロングスパートとなる。洋芝での長丁場ゆえに、非常にスタミナが要求されるタフなレース。終盤に脚を残すようなレースにはなるが、鋭い決め手は不用。切れ味より持続力。回子状態のまま最後の直線に入ることは少なく、力がない馬はついてこられずに道中で脱落してしまう。好走馬の脚質は逃げ~先行馬が大半。ある程度前に行ってレースを進められないと厳しい。枠順はできるだけ内を引いた方がいい。種牡馬成績は同じ馬が複数回好走していることを考慮しなければならないが、ジャングルポケット、チーフベアハート、ジェイドロバリー、マンハッタンカフェが上位。 クラス別水準ラップ(3F-4F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(37.1-50.7-38.0-37.1=2.42.9)、3歳以上1000万(37.3-51.5-37.6-35.7=2.42.1)、3歳以上準OP・OP特別(37.1-50.0-36.5-36.6=2.40.2)、3歳以上重賞( )



# 大倉山特別

2018年08月05日札幌01回04日10R1450発走 大倉山特別 3歳上1000万定量1700ダ 14頭



ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:23%-15%-14%:  
 先:66%-53%-21%:  
 差:8%-26%-40%:  
 追:0%-5%-23%:  
 先先差:11%--:0点  
 先先先:9%--:0点  
 逃先差:9%--:0点  
 先先追:8%--:0点  
 先逃差:8%--:0点  
 逃先追:8%--:0点

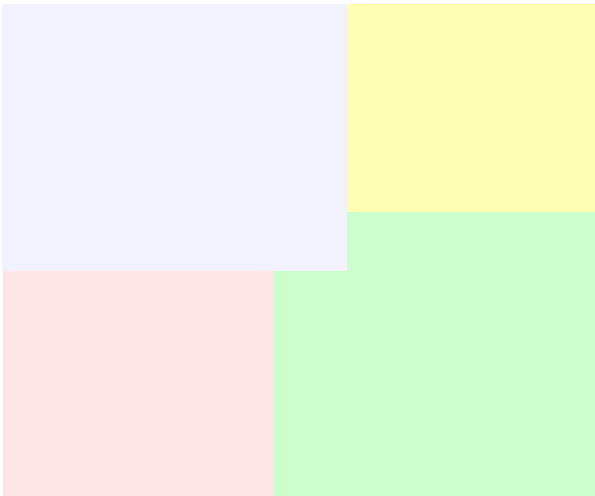
札幌1700ダ:直240m角451m直292m角451m直264m坂000m

スタート地点は正面スタンド前直線右、ダートコースを1周強回る。最初の1コーナーまでの距離は約240m。札幌のダートコースは高低差がほとんどないのが特徴。ローカルの競馬場は、一般的に平坦コースと言われているが、実際にはコース全体で高低差が少しある。中でも札幌のダートコースの高低差は0.9mと、JRA全10場の中で新潟ダートコース(0.5m)に次いで2番目に少ない。加えて、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、3-4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離は264m。3歳以上重賞の水準ラップと勝ち時計はG3のエルムSを対象。高低差が少なく、コーナーのカーブが緩いコースらしく、全体的に速い時計が出る。スタート後の500mはかなり速い。向正面に入ってもペースはあまり落ちず、そのあとゴールまで一定の速いペースで推移。スローペースの上がり勝負にはほとんどならない。スピードの持続力に長け、ダートの高速決着に対応できるスピードタイプの馬でないが、札幌ダートの主力条件で、重賞以外のクラスでも多くのレースが組まれている。脚質は好位につけられる先行馬が最も有利。逃げ馬も悪くない。差し馬はコーナーでマクリ、4コーナー-出口まで好位に押し上げられるタイプでないとなかなか勝てない。枠順の有利・不利はあまりない。種牡馬成績は、シンボリクリスエス、クロフネ、アフリート、マンハッタンカフェ、ワイルドラッシュらが上位。クラス別水準ラップ(2.5F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(30.1-37.9-38.2=1.46.2)、3歳以上1000万(30.0-37.9-37.1=1.45.0)、3歳以上準OP・OP特別(29.8-37.0-37.0=1.43.8)、3歳以上重賞(29.7-37.0-36.4=1.43.1)



# UHB賞

2018年08月05日札幌01回04日11R1525発走 UHB賞 3歳上OPEN ハンデ 1200芝 10頭



良:  
 稍:  
 重:  
 不:  
 良:  
 稍:  
 重:  
 不:

逃:21%-10%-13%:  
 先:35%-48%-25%:  
 差:35%-27%-40%:  
 追:7%-13%-21%:  
 逃先差:7%--:0点  
 差差差:6%--:0点  
 先差差:6%--:0点  
 先先先:6%--:0点  
 逃先追:6%--:0点  
 差先差:5%--:0点

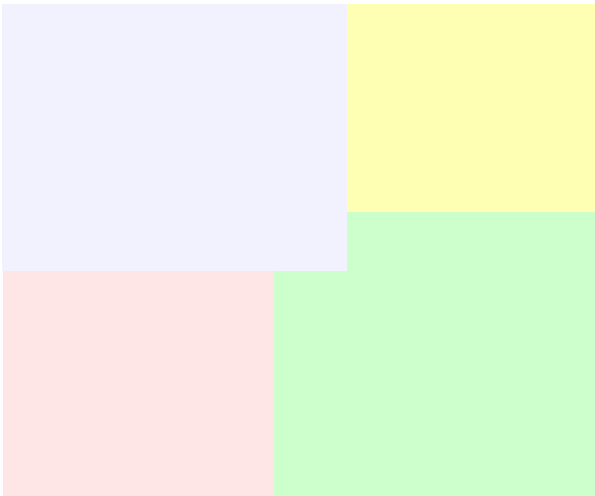
札幌1200芝:直405m角528m直266m坂000m

スタート地点は向正面直線2コーナーから少し左に入ったところのポケット。最初の3コーナーまでの距離は約400mある。札幌競馬場の芝コースは高低差が0.6mと小さく、全周にわたりほぼ平坦。また、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、3-4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離はAコース時が266.1m、Bコース時が267.6m、Cコース時が269.1m。芝は洋芝。各クラスで頻繁に組まれており、札幌開催の番組の中心を担う条件。テンから飛ばす前傾ラップのレース。ゴール前は平坦でも最後は凌ぎ合いで、ラスト1ハロンの時計がかかる。時計の出方は開催日によって違ってくるが、函館開催時期に比べて雨で道悪になるケースは少ない。洋芝でもスピード重視。脚質的には基本的に逃げ~先行馬が有利。ただし、A B Cと仮欄が外に行くほど、逃げ馬の成績はやや悪くなる。枠順は真ん中より内が有利。馬番で言うと10番以内がベスト。8枠は不利で、すんなり先手を奪えそうな馬でないと厳しい。種牡馬成績はサクラバクシンオーが筆頭だが、500万クラス以上では2着が多くなっているの注意。スウェプトオーバーボード、シンボリクリスエス、スペシャルウィークが勝ち鞍・配当的に妙味。タイキシャトル、ボストンハーバーは不振。クラス別水準ラップ(3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(34.5-35.6=1.10.1)、3歳以上500万(33.9-35.8=1.09.7)、3歳以上1000万(34.0-35.2=1.09.2)、3歳以上準OP・OP特別(33.6-35.0=1.08.6)、3歳以上重賞(33.8-34.6=1.08.4)



# 藻岩山特別

2018年08月05日札幌01回04日12R1605発走 藻岩山特別 3歳上1000万ハテ 1800芝 09頭



芝良:  
芝稍:  
芝重:  
芝不:  
ダ良:  
ダ稍:  
ダ重:  
ダ不:  
逃: 7%-11%-23%:  
先: 68%-48%-25%:  
差: 18%-26%-35%:  
追: 5%-13%-15%:  
先先差: 9%--:0点  
先差差: 7%--:0点  
先先追: 7%--:0点  
先先先: 6%--:0点  
差先先: 5%--:0点  
先追逃: 5%--:0点

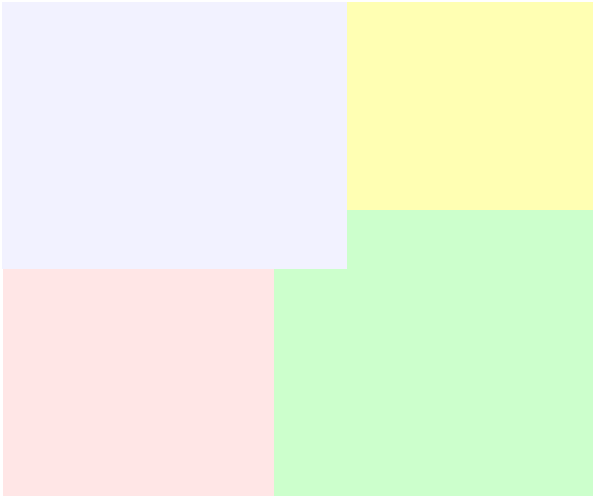
札幌1800芝: 直185m角528m直292m角528m直266m坂000m

スタート地点は正面スタンド前、ホームストレッチの半ば付近で、最初のコーナーまでの距離は約180m。札幌競馬場の芝コースは高低差が0.6mと小さく、全周にわたりほぼ平坦。また、コース全体が丸みを帯びており、コーナーが大回りで直線部分が短いという特徴がある。よって、1-2コーナー、3-4コーナーはかなり緩やかなカーブ。最後の直線距離はAコース時が266.1m、Bコース時が267.6m、Cコース時が269.1m。芝は洋芝。1コーナーまでの距離が短いため、最初の1ハロンのペースはやや速い。2ハロン目は当然速く、ペースが落ち着くとしたらその後の向正面の直線。ただ、極端には緩まずに一定のペースで流れることが多い。上がりの競馬にはあまりならない。脚質的には逃げ~先行馬が有利。ただし、仮欄がA B Cと移動するにつれて逃げ~先行馬の成績は下がり、差し馬が台頭する。開幕週・Aコースの条件下で行われるクイーンSは逃げ馬の天下となっている。枠順は基本的に内がいいが、内で出脚が悪いとへこまされて簡単に位置取りが悪くなるので諸刃の剣。中枠から先行できるタイプが最もリスクが少ない。種牡馬成績はスペシャルウィーク、ダンスインザダーク、フジキセキ、ネオユニヴァース、ステイゴールド、マンハッタンカフェらサンデーサイレンスの系統が強い。キングカメハメハらミスタープロスペクター系はひと息。 クラス別水準ラップ(3F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(36.3-37.3-36.2=1.49.8)、3歳以上500万(37.0-37.2-35.6=1.49.8)、3歳以上1000万(36.4-37.2-35.6=1.49.2)、3歳以上準OP・OP特別( ), 3歳以上重賞(36.0-36.5-35.5=1.48.0)



# 未勝利

2018年08月05日新潟02回04日01R1010発走 未勝利 2歳未勝利馬齢1800芝 10頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃: 7%-13%-13%:  
 先: 26%-28%-16%:  
 差: 44%-41%-28%:  
 追: 21%-16%-41%:  
 差差追: 8%--:0点  
 差先追: 8%--:0点  
 追差追: 6%--:0点  
 追逃差: 5%--:0点  
 差差差: 5%--:0点  
 差追逃: 4%--:0点

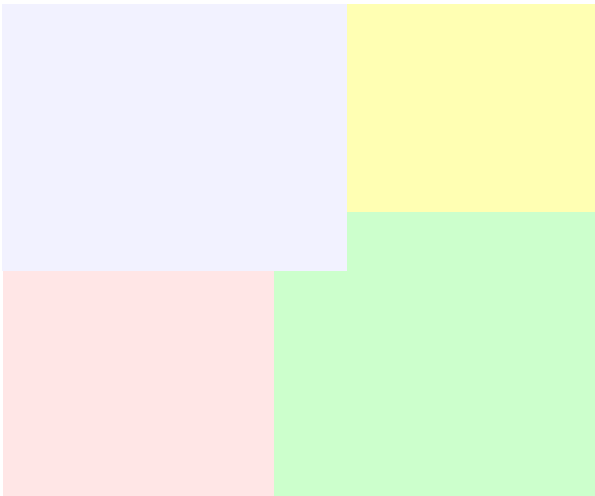
新潟1800芝:直747m角393m直658m坂000m

スタート地点は向正面直線の入り口。内回りコース使用の芝1200mと同じ位置になる。外回りコース使用で、3コーナーまでの距離は748m(Aコース時)。3~4コーナーはスパイラルカーブで、やや急な下り坂。仮柵によるコース設定はA、Bの2パターンで、最後の直線距離はともに659m。この部分はほぼ平坦だが、距離は日本最長を誇る。近年は1000万クラス以下で組まれているコース。1600万クラス以上のタイムは参考程度に考えていただきたい。各クラスの水準ラップでは中盤の3ハロンが遅くなっている。ここは3~4コーナーのカーブが含まれる部分であり、直線部分よりもスピードが落ちるのは仕方がない。ただ、大半のレースが同じようなラップを踏むかと言うとそうではない。大まかに分けると超スローペースが平均ペースのどちらか。スタートからバックストレッチまでのペースが全然上がらず、極端に上がりが速くなることもある。逃げ馬には厳しい舞台。差し馬の好走が多くなっている。枠順はほぼフラット。以前は外枠が強い印象だったが、近年はそうでもなくなってきた。種牡馬成績はキングカメハメハ、ダンスインザダーク、オペラハウス、アグネスチキオンらが上位。フレンチデビューティはいいが、クロフネは苦戦している。また、ステイゴールド、スペシャルウィークも好走率が悪い。クラス別水準ラップ(3F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(35.4-37.1-34.4=1.46.9)、3歳以上1000万(36.2-36.7-33.8=1.46.7)、3歳以上準OP・OP特別(35.6-36.2-34.3=1.46.1)、3歳以上重賞(34.8-36.1-34.3=1.45.2)



# 未勝利

2018年08月05日新潟02回04日02R1040発走 未勝利 3歳未勝利馬齢1200ダ 15頭



ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:28%-13%- 9%:  
 先:49%-55%-16%:  
 差:16%-27%-45%:  
 追: 5%- 4%-27%:  
 逃先差:11%--:0点  
 逃先追:9%--:0点  
 先逃差:7%--:0点  
 先先追:7%--:0点  
 先先差:7%--:0点  
 先差差:6%--:0点

新潟1200ダ:直524m角321m直353m坂000m

スタート地点は2コーナーのポケット。中央4場以外でダート1200mを組める唯一の場所だが、実際には芝コースが発走地点。中山ダート1200m同様、内と外では芝を走る距離が異なり、外へ行くほど芝部分が長くなる。3コーナーまでの距離は約525m。3~4コーナーはスパイラルカーブでほぼ平坦。新潟ダートコースは高低差が0.5mと、JRA全10場のダートの中で最も高低差が少ない。ただし、競馬場全体が横に長いので、コーナー角度はきつい。最後の直線距離は354m。前半600mはクラスを問わず3.4秒前半が水準タイム。前述したように新潟はコーナー角度きついので、スパイラルカーブでも減速せざるを得ない。後半600mの速さがクラスの差であることは明らか。水準タイムはクラスによってやや差が出ている。基本的に逃げ・先行馬が有利。最後の直線が長い点は差し馬に有利に働いているが、実際に差し切るには相当な力が必要。枠順はフラット。芝スタートだが、中山ダート1200mのように、単純に外枠有利ではない。スタートダッシュが決まるかの方が大事。種牡馬成績はアフリート、タイキシャトル、サクラバクシンオー、フレンチデビューティ、ブライアンズタイムが上位。以下、コロナドズクエスト、フォーティナイターなどミスターブロスベクター系全般が好走馬を量産している。クラス別水準ラップ(3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(34.1-37.7=1.11.8)、3歳以上1000万(34.2-37.0=1.11.2)、3歳以上準OP・OP特別(34.1-36.1=1.10.2)、3歳以上重賞( )

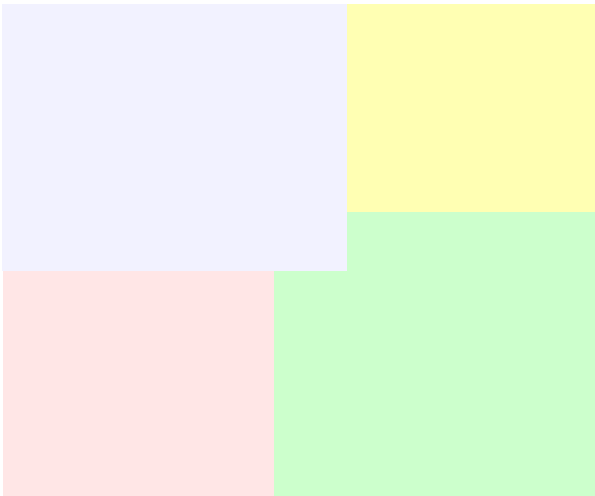


# 未勝利

2018年08月05日新潟02回04日03R1110発走 未勝利 3歳未勝利馬齢1800ダ 15頭

ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:22%-19%- 9%:  
 先:54%-47%-14%:  
 差:18%-25%-45%:  
 追: 5%- 8%-30%:  
 先先差:10%--:0点  
 先先追:8%--:0点  
 逃先差:7%--:0点  
 先逃差:6%--:0点  
 先逃追:6%--:0点  
 逃先追:5%--:0点

新潟1800ダ:直388m角321m直415m角321m直353m坂000m



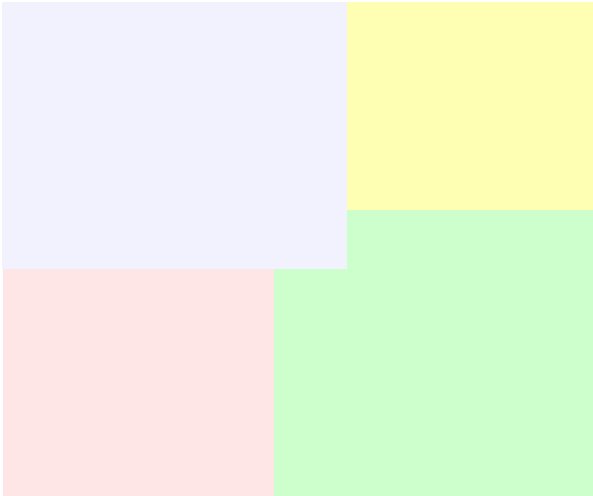
スタート地点はスタンド前直線の4コーナー寄り。最初の1コーナーまでの距離は約389mで平坦。1~2コーナー途中から2コーナー過ぎまで緩い上り坂。向正面はほぼ平坦。3~4コーナーはスパイラルカーブでほぼ平坦。新潟ダートコースは高低差が0.5mと、JRA全10場のダートの中で最も高低差が少ない。ただし、競馬場全体が横に長いので、コーナー角度はきつい。最後の直線距離は354m。フルゲートは15頭。一般的には序盤は各馬がポジションを取りに行くため速く流れて、中盤で落ち着くという展開だが、メンバー構成にかなり左右されやすい。3歳以上重賞の水準ラップは10年のエルムSのみのデータで、同レースは中盤でかなり緩み、上がりの競馬になった。少ないケースではあるが、スローペースになると、コーナー角度がきつい影響もあり、外々を回られる馬や後方待機の馬は非常に厳しくなる。逆に言えば逃げ馬、4コーナーを先頭で回った馬がそのまま上がりをもとめて好走する確率が高くなる。一方、平均ペース以上で流れても後ろから行く馬が有利ということはない。脚質的にはやはり逃げ・先行馬が有利。道悪になるとその傾向が増し、前々で競馬ができる馬でないと勝負にならない。良馬場・稍重での逃げ馬の連対率は35%前後だが、重馬場以上になると約45%までアップする。枠順は多頭数の14番、15番ゲート以外はほぼフラット。フルゲートの大外は距離ロスが強いられるのでやや厳しい。種牡馬成績はシンボリクリスエスがトップ。以下、ネオユニヴァース、クロフネ、マーベラスサンデー、プライアンスタイム、キングカメハメハラが続く。勝率や連対率ではヘイロー系とミスターブロスベクター系がほぼ互角だが、1800mではヘイロー系の方が強くなる。クラス別水準ラップ(3F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(36.6-38.1-38.5=1.53.2)、3歳以上1000万(36.0-38.2-38.1=1.52.3)、3歳以上準OP・OP特別(35.8-37.8-37.5=1.5





# 未勝利

2018年08月05日新潟02回04日04R1140発走 未勝利 3歳未勝利馬齢1600芝 18頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:10%- 2%-18%:  
 先:33%-34%-19%:  
 差:35%-41%-27%:  
 追:20%-20%-34%:  
 差先追:7%--:0点  
 追差追:6%--:0点  
 追先逃:5%--:0点  
 差差追:5%--:0点  
 差追差:4%--:0点  
 差差差:4%--:0点

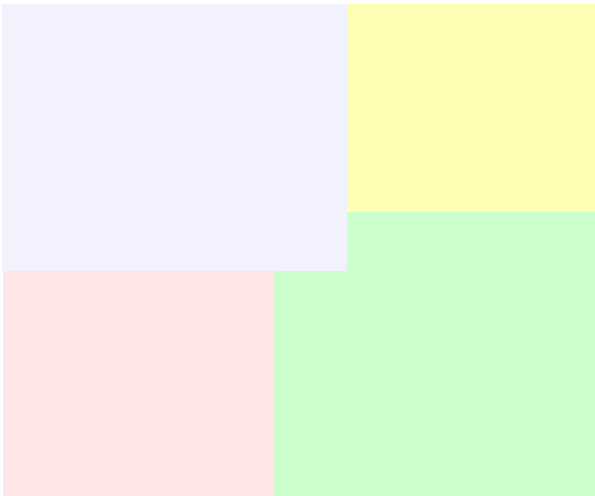
新潟1600芝:直547m角393m直657m坂000m

スタート地点は向正面直線の真ん中よりやや右。3コーナーまでの直線は約550m(Aコース時)。バックストレッチの内回りと外回りの分岐点を過ぎたところから、約2mの坂を上る。3~4コーナーはスパイラルカーブで、やや急な下り坂。仮柵によるコース設定はA、Bの2パターンで、最後の直線距離はともに659m。この部分はほぼ平坦だが、距離は日本最長を誇る。前半は平均ペースで3~4コーナーのカーブでペースダウン、後半瞬発力勝負というのがおおまかな流れ。よって、すべてのクラスの水準ラップで前半3ハロンより後半3ハロンの方が速くなっている。全体の時計も速く、関屋記念では1分32秒半ばが水準時計。新潟2歳Sでも1分34秒台の時計が出る。仕掛けのタイミングは最後の直線に入ってからでも十分に間に合うため、逃げにとっては厳しいコース。要は最後の600~800mでどれだけ速い上がりを使うことができるかがポイントだ。Aコースでは先行~差しが互角。Bコースでは差し馬が圧倒的に優勢。枠順はほぼフラット。種牡馬成績はアグネスタキオン、フジキセキ、タニノギムレット、サクラバクシンオー、キングカメハメハ、ジャングルポケットらが上位。全体的にはヘイルトゥリーズン系が強い。アグネスデジタル、マイネルラヴは苦戦。クラス別水準ラップ(3F-2F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(35.6-24.7-34.0=1.34.3)、3歳以上500万(35.5-24.1-34.4=1.34.0)、3歳以上1000万(35.2-23.9-34.2=1.33.3)、3歳以上準OP・OP特別(35.1-23.4-34.5=1.33.0)、3歳以上重賞(35.6-23.4-33.5=1.32.5)



# 新馬

2018年08月05日新潟02回04日05R1230発走 新馬 2歳新 馬馬齢1800芝 08頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃: 7%-13%-13%:  
 先: 26%-28%-16%:  
 差: 44%-41%-28%:  
 追: 21%-16%-41%:  
 差差追: 8%--:0点  
 差先追: 8%--:0点  
 追差追: 6%--:0点  
 追逃差: 5%--:0点  
 差差差: 5%--:0点  
 差追逃: 4%--:0点

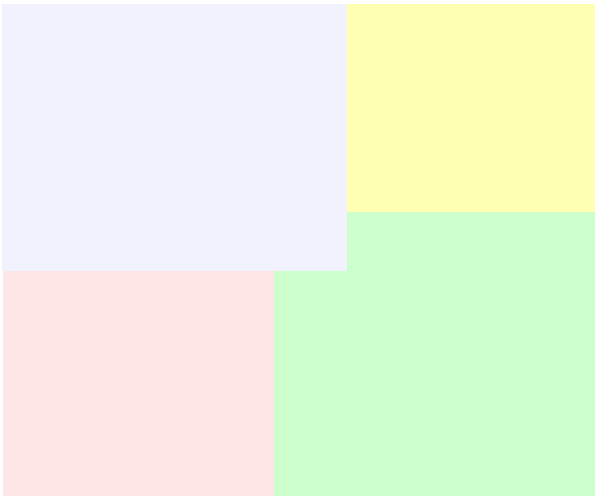
新潟1800芝:直747m角393m直658m坂000m

スタート地点は向正面直線の入り口。内回りコース使用の芝1200mと同じ位置になる。外回りコース使用で、3コーナーまでの距離は748m(Aコース時)。3~4コーナーはスパイラルカーブで、やや急な下り坂。仮柵によるコース設定はA、Bの2パターンで、最後の直線距離はともに659m。この部分はほぼ平坦だが、距離は日本最長を誇る。近年は1000万クラス以下で組まれているコース。1600万クラス以上のタイムは参考程度に考えていただきたい。各クラスの水準ラップでは中盤の3ハロンが遅くなっている。ここは3~4コーナーのカーブが含まれる部分であり、直線部分よりもスピードが落ちるのは仕方がない。ただ、大半のレースが同じようなラップを踏むかと言うとそうではない。大まかに分けると超スローペースが平均ペースのどちらか。スタートからバックストレッチまでのペースが全然上がらず、極端に上がりが速くなることもある。逃げ馬には厳しい舞台。差し馬の好走が多くなっている。枠順はほぼフラット。以前は外枠が強い印象だったが、近年はそうでもなくなってきた。種牡馬成績はキングカメハメハ、ダンスインザダーク、オペラハウス、アグネスキオンらが上位。フレンチデビューティはいいが、クロフネは苦戦している。また、ステイゴールド、スペシャルウィークも好走率が悪い。クラス別水準ラップ(3F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(35.4-37.1-34.4=1.46.9)、3歳以上1000万(36.2-36.7-33.8=1.46.7)、3歳以上準OP・OP特別(35.6-36.2-34.3=1.46.1)、3歳以上重賞(34.8-36.1-34.3=1.45.2)



# 新馬

2018年08月05日新潟02回04日06R1300発走 新馬 2歳新 馬馬齢1400芝 18頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:23%- 8%- 8%:  
 先:34%-41%-20%:  
 差:28%-41%-34%:  
 追:13%- 8%-36%:  
 先先追:11%--:0点  
 逃先差:7%--:0点  
 差差追:5%--:0点  
 差差差:5%--:0点  
 先差逃:4%--:0点  
 逃差追:4%--:0点

新潟1400芝:直647m角393m直358m坂000m

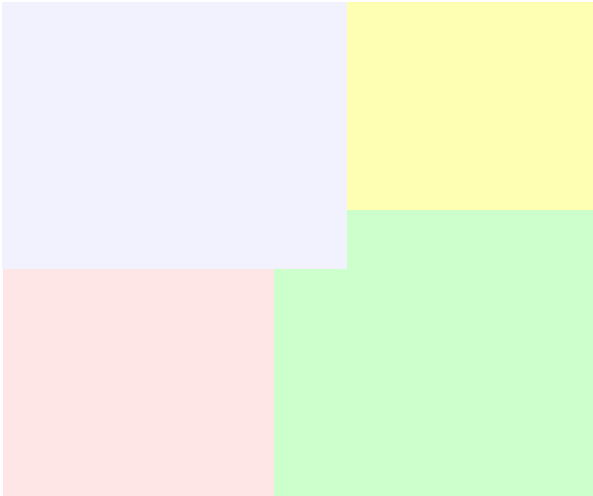
スタート地点は向正面直線の右奥の2コーナーポケット。芝1200mからそのまま200m延長したコース。芝1400mは外回りコースも取れるが、通常は内回りコースが使用される。3コーナーまでの直線は約648m(Aコース時)。外回りの芝1600mよりも長いバックストレッチを走ることになる。3~4コーナーはスパイラルカーブで緩やかな下り坂。仮柵によるコース設定はA、Bの2パターンで、最後の直線距離はともに359m。BコースはAコースより4m幅員が狭くなっている。前半600mは丸々直線のみを走ることになるが、各クラスの水準時計が示す通り、後半600mより速い前傾ラップとなっている。前半が速すぎると、ラスト1ハロンの時計がかかる。そうでない場合は残り1000mから11秒台のラップが平均してゴールまで続くイメージ。脚質的には芝1200m同様逃げ・先行馬が有利。好走馬の数では先行と差しが多いが、勝率や連対率、回収率などあらゆる面で逃げ馬がトップにある。特にAコース時は強い。馬場状態にもよるが、前半600mが33秒台で流れても差し・差しで決まるケースは少なく、差し馬が好走しても前が総崩れになることは珍しい。追い込み馬は苦しい。枠順はフラット。種牡馬成績はここでもサクラバクシンオーがトップ。以下フジキセキ、アグネスタキオン、ダンスインザダーク、マーベラスサンデーとヘイロー系が上位。その他ではキングカメハメハ、タニノギムレット、スウェプトオーヴァーボードが強い。キングヘイローとネオユニヴァースは不振。クラス別水準ラップ(3F-1F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(34.7-12.1-35.6=1.22.4)、3歳以上5000万(34.1-11.8-35.7=1.21.6)、3歳以上1000万(34.2-11.9-35.2=1.21.3)、3歳以上準OP・OP特別(33.8-11.6-35.4=1.20.8)、3歳以上重賞( )



2018年08月05日新潟02回04日07R1330発走 500万 3歳上500万定量1800ダ 15頭

良:  
 稍:  
 重:  
 不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:22%-19%- 9%:  
 先:54%-47%-14%:  
 差:18%-25%-45%:  
 追: 5%- 8%-30%:  
 先先差:10%--:0点  
 先先追:8%--:0点  
 逃先差:7%--:0点  
 先逃差:6%--:0点  
 先逃追:6%--:0点  
 逃先追:5%--:0点

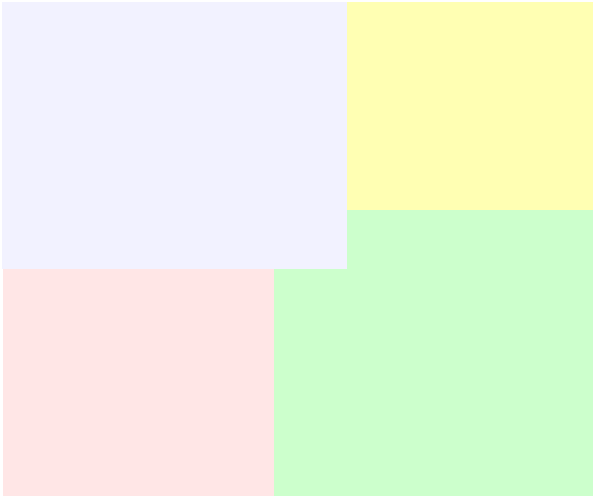
新潟1800ダ:直388m角321m直415m角321m直353m坂000m



スタート地点はスタンド前直線の4コーナー寄り。最初の1コーナーまでの距離は約389mで平坦。1~2コーナー途中から2コーナー過ぎまで緩い上り坂。向正面はほぼ平坦。3~4コーナーはスパイラルカーブでほぼ平坦。新潟ダートコースは高低差が0.5mと、JRA全10場のダートの中で最も高低差が少ない。ただし、競馬場全体が横に長いので、コーナー角度はきつい。最後の直線距離は354m。フルゲートは15頭。一般的には序盤は各馬がポジションを取りに行くため速く流れて、中盤で落ち着くという展開だが、メンバー構成にかなり左右されやすい。3歳以上重賞の水準ラップは10年のエルムSのみのデータで、同レースは中盤でかなり緩み、上がりの競馬になった。少ないケースではあるが、スローペースになると、コーナー角度がきつい影響もあり、外々を回られる馬や後方待機の馬は非常に厳しくなる。逆に言えば逃げ馬、4コーナーを先頭で回った馬がそのまま上がりをもとめて好走する確率が高くなる。一方、平均ペース以上で流れても後ろから行く馬が有利ということはない。脚質的にはやはり逃げ・先行馬が有利。道悪になるとその傾向が増し、前々で競馬ができる馬でないと勝負にならない。良馬場・稍重での逃げ馬の連対率は35%前後だが、重馬場以上になると約45%までアップする。枠順は多頭数の14番、15番ゲート以外はほぼフラット。フルゲートの大外は距離ロスが強いられるのでやや厳しい。種牡馬成績はシンボリクリスエスがトップ。以下、ネオユニヴァース、クロフネ、マーベラスサンデー、プライアンスタイム、キングカメハメハラが続く。勝率や連対率ではヘイロー系とミスターブロスベクター系がほぼ互角だが、1800mではヘイロー系の方が強くなる。クラス別水準ラップ(3F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(36.6-38.1-38.5=1.53.2)、3歳以上1000万(36.0-38.2-38.1=1.52.3)、3歳以上準OP・OP特別(35.8-37.8-37.5=1.5



2018年08月05日新潟02回04日08R1400発走 500万 3歳上500万定量1200ダ 15頭



ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:28%-13%- 9%:  
 先:49%-55%-16%:  
 差:16%-27%-45%:  
 追: 5%- 4%-27%:  
 逃先差:11%--:0点  
 逃先追:9%--:0点  
 先逃差:7%--:0点  
 先先追:7%--:0点  
 先先差:7%--:0点  
 先差差:6%--:0点

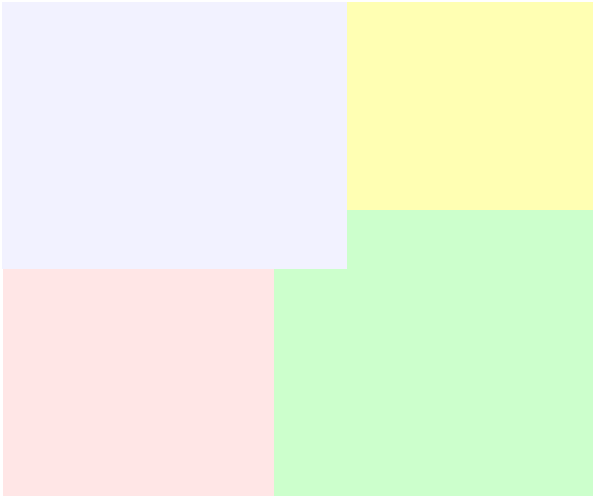
新潟1200ダ:直524m角321m直353m坂000m

スタート地点は2コーナーのポケット。中央4場以外でダート1200mを組める唯一の場所だが、実際には芝コースが発走地点。中山ダート1200m同様、内と外では芝を走る距離が異なり、外へ行くほど芝部分が長くなる。3コーナーまでの距離は約525m。3~4コーナーはスパイラルカーブでほぼ平坦。新潟ダートコースは高低差が0.5mと、JRA全10場のダートの中で最も高低差が少ない。ただし、競馬場全体が横に長いので、コーナー角度はきつい。最後の直線距離は354m。前半600mはクラスを問わず3.4秒前半が水準タイム。前述したように新潟はコーナー角度きついため、スパイラルカーブでも減速せざるを得ない。後半600mの速さがクラスの差であることは明らか。水準タイムはクラスによってやや差が出ている。基本的に逃げ・先行馬が有利。最後の直線が長い点は差し馬に有利に働いているが、実際に差し切るには相当な力が必要。枠順はフラット。芝スタートだが、中山ダート1200mのように、単純に外枠有利ではない。スタートダッシュが決まるかの方が大事。種牡馬成績はアフリート、タイキシャトル、サクラバクシンオー、フレンチデビュティ、ブライアンズタイムが上位。以下、コロナドズクエスト、フォーティナイターなどミスターブロスベクター系全般が好走馬を量産している。クラス別水準ラップ(3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(34.1-37.7=1.11.8)、3歳以上1000万(34.2-37.0=1.11.2)、3歳以上準OP・OP特別(34.1-36.1=1.10.2)、3歳以上重賞( )



# 燕特別

2018年08月05日新潟02回04日09R1435発走 燕特別 3歳上500万定量2200芝 14頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:13%-13%- 2%:  
 先:33%-58%-36%:  
 差:36%-19%-33%:  
 追:16%- 8%-27%:  
 追先先:13%--:0点  
 差先差:11%--:0点  
 先先追:11%--:0点  
 差先追:5%--:0点  
 差逃差:5%--:0点  
 先差追:5%--:0点

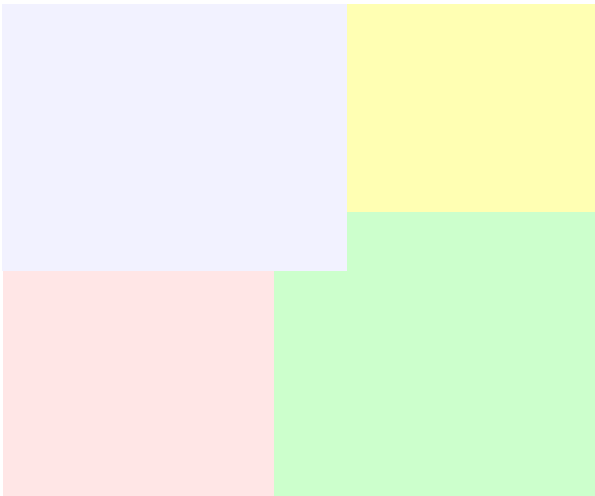
新潟2200芝:直636m角393m直418m角393m直358m坂000m

スタート地点はスタンド前の直線、外回りコースの4コーナーと内回りコースの合流地点の間。最初の1コーナーまでの距離は約636m(Aコース時)。1~2コーナーは緩やかな上り。向正面に入り、内回りコースを使用。3~4コーナーはスパイラルカーブで緩やかな下り坂。仮柵によるコース設定はA、Bの2パターンで、最後の直線距離はともに359m。BコースはAコースより4m幅員が狭くなっている。スタート直後は先行争いがあり、ある程度ペースは流れる。1コーナーを過ぎるとペースが落ち着き、向正面では完全に緩む。1600万クラスになると平均的に流れるようになるが、途中13秒台のラップを刻むことがある。3~4コーナーの間からペースが上がり、ゴールまで追い比べ。だが、外回りコースで要求されるような鋭い決め手は必要ではなく、ロングスパートからねじ伏せる力が必要。脚質的には逃げ馬も悪くないが、先行馬が最も信頼できる。差しも届くが、勝ち切るのは大変で、2、3着が多くなる。穴も期待薄で強い馬のみをマークしていればいい。追い込みは展開が嵌らないと厳しい。マクリ切るのも容易ではなく、直線入り口で好位を取ることが非常に大事。枠順はほぼフラット。種牡馬成績はジャングルポケット、ダンスインザダーク、オペラハウス、アドマイヤベガらが上位。アグネスタキオン、マンハッタンカフェ、ホワイトマズルは不振。 クラス別水準ラップ(3F-4F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(35.6-62.9-36.0=2.14.5)、3歳以上1000万(35.9-62.9-35.0=2.13.8)、3歳以上準OP・OP特別(35.9-62.6-34.8=2.13.3)、3歳以上重賞( )



# 驍進特別

2018年08月05日新潟02回04日10R1510発走 驍進特別 3歳上1000万定量1000芝 16頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:21%-15%- 5%:  
 先:35%-37%-25%:  
 差:34%-33%-34%:  
 追: 7%-12%-33%:  
 差先追:8%--:0点  
 逃先追:5%--:0点  
 差差差:4%--:0点  
 差逃先:4%--:0点  
 先差追:4%--:0点  
 先先追:4%--:0点

新潟1000芝:直000m角000m直A00m坂000m

日本で唯一となる一直線のコース。スタート地点はホームストレッチの一番左端。スタート直後から高低差約1mの上り坂になっており、200m強進んだところで下り坂。その後、もう一回緩い上り下りが入り、ラスト300mぐらいからようやく平坦でゴールまで続く。このコースの最大の特徴と言えば、外枠が非常に有利であること。特に開催が進み、内回りと外回りを共有する部分の芝に入った場合は、絶対に外の方が芝状態が良好。したがって、粋なりに真っすぐ走れば最短の距離でゴールすることができる外枠が有利というわけだ。その他の枠の馬でも、スタート後に外へ外へ進路を取るため、馬群がスタンド前のラチ沿いに押し寄せってくる。フルゲートはAコース時が18頭、Bコース時が16頭。基本的に最初の1Fとラスト1Fが1.1秒台のラップを刻み、2~4Fは1.0秒台のラップで推移する。最後は平坦だが、ラスト1ハロンの時計がかかる。脚質的には逃げ、先行馬の好走が最も多いが、差し馬も十分対応可能。わずかに1000mの勝負といっても、全部トップスピードでは走れないので、しっかりした未脚を持つ馬は逆に有利。他場の1200mとは少し趣が異なり、小回りコースが苦手なタイプの馬が浮上してくる。種牡馬成績はサクラバクシンオーがトップ。続いて注目なのがミスターブロスベクター系。スウェプトオーバーボード、スキャン、アフリート、スピードワールド、コロナドズクエストなどが回収率が高い。ヘイロー系ならばマンハッタンカフェ、フジキセキ、タイキシャトル。芝・ダート兼用血統が強く、実際にダートから転戦してきた逃げ、先行馬が穴をあけるケースが目立つ。 クラス別水準ラップ(2F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(22.0-33.2=55.2)、3歳以上1000万(22.0-33.1=55.1)、3歳以上準OP・OP特別(22.1-32.8=54.9)、3歳以上重賞(21.6-32.5=54.1)

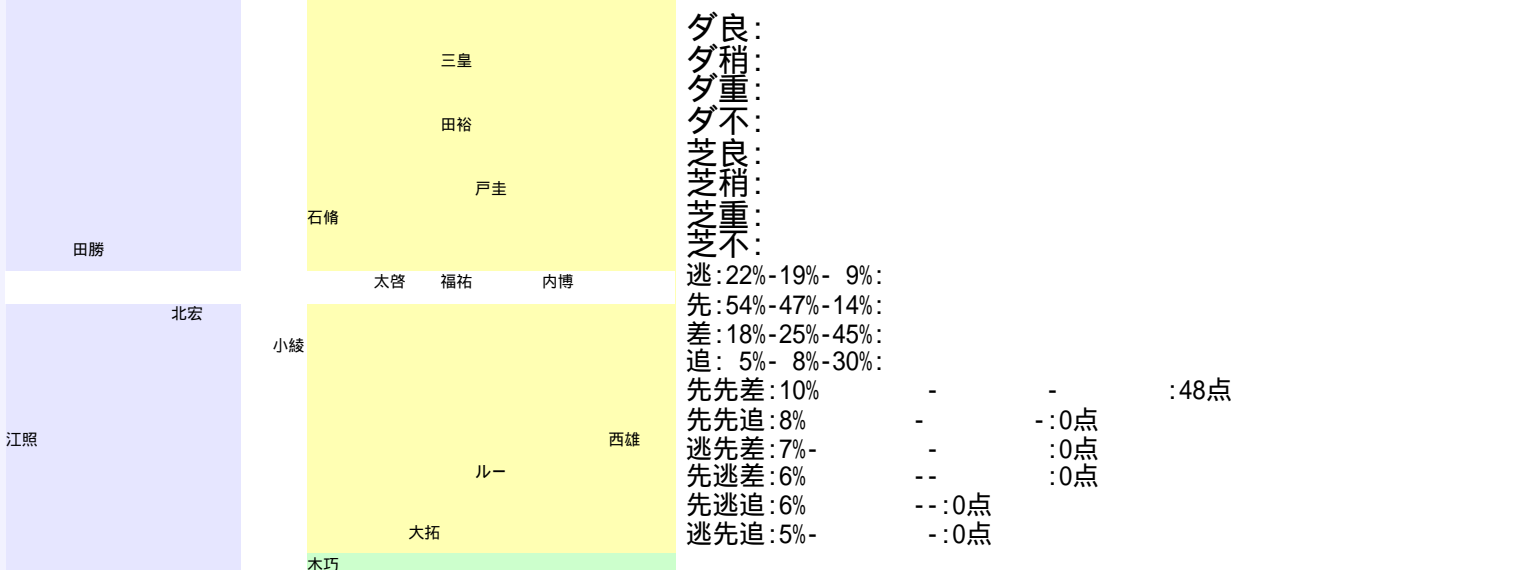


レパードステークスG3

606 599 593 590 558 524
16.3 石橋 三皇 内博 福祐 北宏

Table with 15 columns and 20 rows of race data including horse names, jockeys, and race results.

2018年08月05日新潟02回04日11R1545発走 レパードステークスG3 3歳OPEN 馬齢1800ダ 15頭

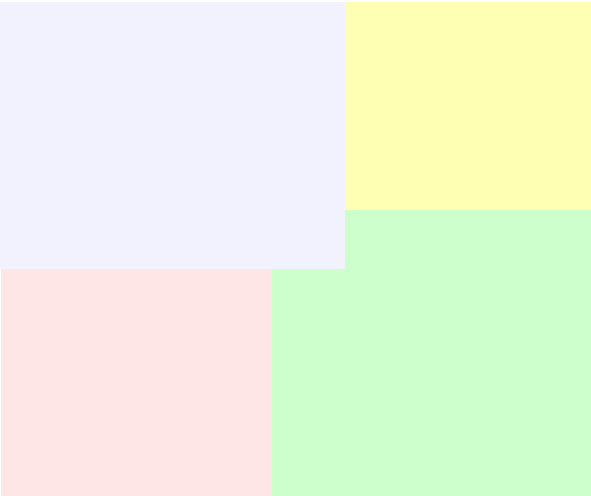


スタート地点はスタンド前直線の4コーナー寄り... 新潟1800ダ:直388m角321m直415m角321m直353m坂000m





2018年08月05日新潟02回04日12R1630発走 500万 3歳上500万定量1400芝 18頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:23%- 8%- 8%:  
 先:34%-41%-20%:  
 差:28%-41%-34%:  
 追:13%- 8%-36%:  
 先先追:11%--:0点  
 逃先差:7%--:0点  
 差差追:5%--:0点  
 差差差:5%--:0点  
 先差逃:4%--:0点  
 逃差追:4%--:0点

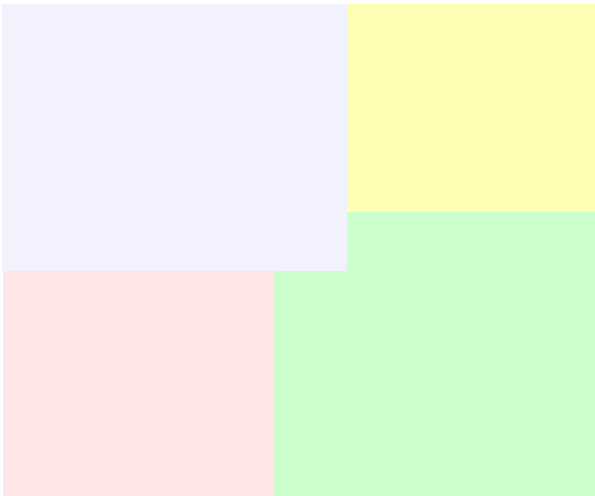
新潟1400芝:直647m角393m直358m坂000m

スタート地点は向正面直線の右奥の2コーナーポケット。芝1200mからそのまま200m延長したコース。芝1400mは外回りコースも取れるが、通常は内回りコースが使用される。3コーナーまでの直線は約648m(Aコース時)。外回りの芝1600mよりも長いバックストレッチを走ることになる。3-4コーナーはスパイラルカーブで緩やかな下り坂。仮柵によるコース設定はA、Bの2パターンで、最後の直線距離はともに359m。BコースはAコースより4m幅員が狭くなっている。前半600mは丸々直線のみを走ることになるが、各クラスの水準時計が示す通り、後半600mより速い前傾ラップとなっている。前半が速すぎると、ラスト1ハロンの時計がかかる。そうでない場合は残り1000mから11秒台のラップが平均してゴールまで続くイメージ。脚質的には芝1200m同様逃げ・先行馬が有利。好走馬の数では先行と差しが多いが、勝率や連対率、回収率などあらゆる面で逃げ馬がトップにある。特にAコース時は強い。馬場状態にもよるが、前半600mが33秒台で流れても差し・差しで決まるケースは少なく、差し馬が好走しても前が総崩れになることは珍しい。追い込み馬は苦しい。枠順はフラット。種牡馬成績はここでもサクラバクシンオーがトップ。以下フジキセキ、アグネスタキオン、ダンスインザダーク、マーベラスサンデーとヘイロー系が上位。その他ではキングカメハメハ、タニノギムレット、スウェプトオーヴァーボードが強い。キングヘイローとネオユニヴァースは不振。クラス別水準ラップ(3F-1F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(34.7-12.1-35.6=1.22.4)、3歳以上500万(34.1-11.8-35.7=1.21.6)、3歳以上1000万(34.2-11.9-35.2=1.21.3)、3歳以上準OP・OP特別(33.8-11.6-35.4=1.20.8)、3歳以上重賞( )



# 未勝利

2018年08月05日小倉02回04日01R1000発走 未勝利 2歳未勝利馬齢1200芝 11頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:20%-10%- 9%:  
 先:50%-49%-12%:  
 差:23%-30%-43%:  
 追: 4%- 8%-34%:  
 先先追:10%--:0点  
 逃先差:8%--:0点  
 先差追:6%--:0点  
 先先差:6%--:0点  
 先差差:6%--:0点  
 差先差:5%--:0点

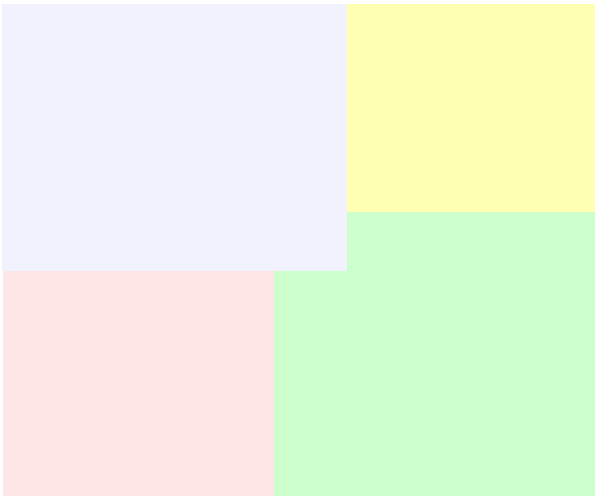
小倉1200芝:直479m角428m直293m坂000m

スタート地点は向正面直線の2コーナーポケット。小倉競馬場は2コーナーのところを最高部(芝コースの高低差は2.96m)になっており、スタート後200mほど下る。3コーナーまでの直線距離は約480m。3~4コーナーはスパイラルカーブで下り坂。最後の直線距離は293m。仮柵によるコース設定はA、B、Cの3パターン。コース形態に伴い、前半の600mはとにかく速い。どのクラスも3秒前半が水準時計。古馬重賞の北九州記念になると3秒台になる。3コーナーの入り口ではあまり速度が落ちないため、4コーナーから最後の直線に入る際のコーナリングは案外難しい。これがスパイラルカーブの特性だが、小倉芝1200mでは特に外に振られやすくなっている。基本的には逃げ~先行馬が有利だが、前後半3ハロンのラップ差が激しいので、前が総崩れになることもある。Cコース時は逃げ馬の成績が多少落ちる。馬場状態もカギとなる。種牡馬成績はサクラバクシンオーが抜けて好成績を挙げている。以下、アグネスタキオン、フジキセキ、キングカメハメハ、クロフネ、フレンチデビュティ。メイショウオウドウ、アドマイヤボス、マーベラスサンデー、アドマイヤベガは不振。 クラス別水準ラップ(3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(33.4-35.5=1.08.9)、3歳以上500万(33.5-34.9=1.08.4)、3歳以上1000万(33.5-34.6=1.08.1)、3歳以上準OP・OP特別(33.1-34.6=1.07.7)、3歳以上重賞(32.6-34.8=1.07.4)



# 未勝利

2018年08月05日小倉02回04日02R1030発走 未勝利 3歳未勝利馬齢1000ダ 14頭



ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:35%-12%-13%:  
 先:53%-57%-22%:  
 差:9%-18%-50%:  
 追:0%-11%-14%:  
 逃先差:16%--:0点  
 先逃差:10%--:0点  
 先先逃:8%--:0点  
 逃先追:8%--:0点  
 先差差:7%--:0点  
 先先追:5%--:0点

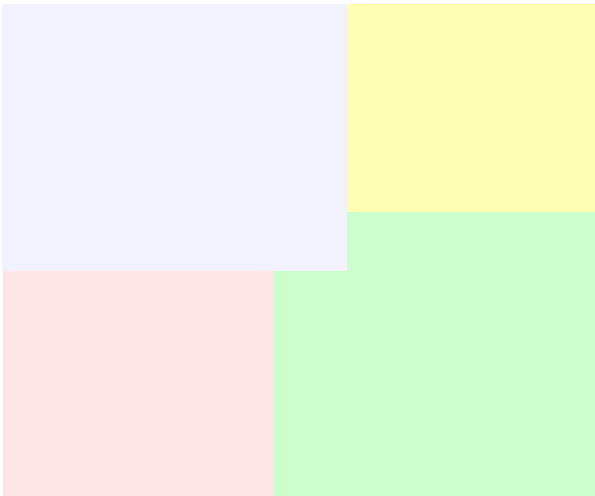
小倉1000ダ:直365m角343m直291m坂000m

スタート地点は向正面直線の左。最初の3コーナーまでの距離は約365mで、緩い下り坂になっている。3~4コーナーはスパイラルカーブ。最後の直線距離は291mで、若干の上り坂になっている。小倉ダートコースで唯一の短距離戦だが、組まれているレースは未勝利戦と500万クラスがほとんど。スタート直後の下り坂を利用して、テンからかなり速いスピードが出る。ほぼ行ったもの勝ちで、人気の逃げ~先行馬がそのままなだれ込む展開が多い。差し馬はかなり不利。追い込み馬は3着すら厳しい。枠順は中枠が理想。仮に大外枠を引いても問題はなく、むしろ内枠で先行できずに包まれてしまう方が怖い。種牡馬成績はサクラバクシンオーがトップ。以下、サウスヴィグラス、ボストンハーバー、ストラヴィンスキー、ゴールドアリュールらが続く。 クラス別水準ラップ(2F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(22.8-36.1=58.9)、3歳以上1000万( )、3歳以上準OP・OP特別( )、3歳以上重賞( )



# 未勝利

2018年08月05日小倉02回04日03R1100発走 未勝利 3歳未勝利馬齢1700ダ 16頭



ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:

逃:25%-13%- 5%:  
 先:55%-58%-19%:  
 差:17%-19%-38%:  
 追: 1%- 8%-36%:  
 先先追:11%--:0点  
 先先差:11%--:0点  
 逃先追:8%--:0点  
 先逃差:6%--:0点  
 差先追:5%--:0点  
 逃先差:5%--:0点

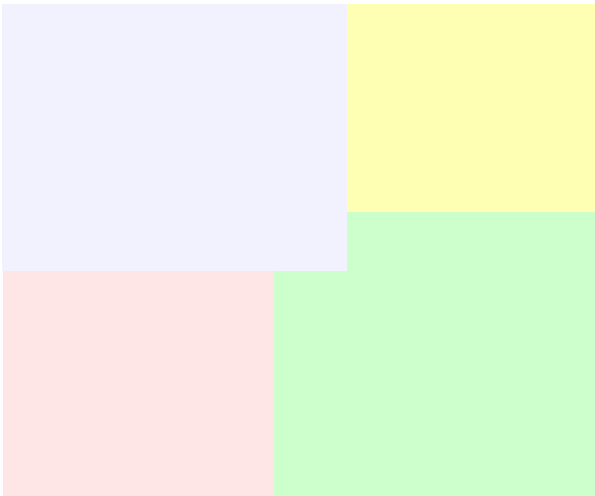
小倉1700ダ:直342m角343m直379m角343m直291m坂000m

スタート地点は正面スタンド前直線の右端。4コーナーの出口からの発走で、最初の1コーナーまでの距離は約343m。1～2コーナーは上り坂で、途中にダートコースの最高位部分を通過。ちなみに小倉ダートコース全体の高低差は2.9m。3～4コーナーはスパイラルカーブ。最後の直線距離は291m。小倉のダート競走の中心舞台で、重賞以外はどのクラスでもレースが組まれている。スタート直後から各馬は飛ばしてポジションを取りに行く。前半500mぐらいいは速いペースとなる。直後の1ハロンでペースが落ち、その後は一定のペース。全体的には淀みない流れで、ラストの上がりがかかりがち。逃げ～先行馬はほぼ互角の成績。差し馬の連対率は逃げ～先行馬の1/3ほどに下がり、追い込み馬はもっと厳しい。序盤のポジションが後ろの馬はマクれないとダメ。要は4コーナーでは好位にいななければならない。乱ペースになることも多く、マクリは結構決まる。枠順は大外枠が不利。人気を背負った強い馬でも大外枠を引いた場合は、苦しい競馬になる。最内も諸刃の剣で、中枠が一番無難。種牡馬成績はキングカメハメハ、シンボリクリスエス、ワイルドドラッシュ、アフリート、クロフネらが上位。パブルガムフェロー、フォーティナイター、ジャングルポケット、トワイニング、マジックマイルズらほひとつ息。クラス別水準ラップ(2.5F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(29.8-38.8-37.8=1.46.4)、3歳以上1000万(29.8-37.7-37.9=1.45.4)、3歳以上準OP・OP特別(29.9-37.5-36.9=1.44.3)、3歳以上重賞( )



# 未勝利

2018年08月05日小倉02回04日04R1130発走 未勝利 障3歳上未勝利定量2860障 08頭



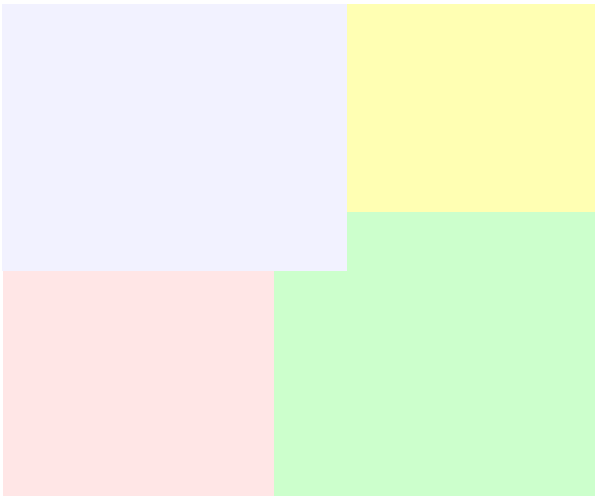
夕良:  
 夕稍:  
 夕重:  
 夕不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:58%-16%- 8%:  
 先:41%-75%-33%:  
 差: 0%- 8%-58%:  
 追: 0%- 0%- 0%:  
 逃先差:50%--:0点  
 先差先:8%--:0点  
 先先差:8%--:0点  
 先先先:8%--:0点  
 先逃先:8%--:0点  
 先逃逃:8%--:0点

小倉2860障:直000m角000m直000m坂000m



# 新馬

2018年08月05日小倉02回04日05R1220発走 新馬 2歳新 馬馬齢1800芝 16頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:16%- 8%-10%:  
 先:50%-46%-20%:  
 差:26%-37%-46%:  
 追: 7%- 7%-22%:  
 先先差:10%--:0点  
 先先追:8%--:0点  
 逃先差:7%--:0点  
 先差追:6%--:0点  
 先差差:6%--:0点  
 差差差:4%--:0点

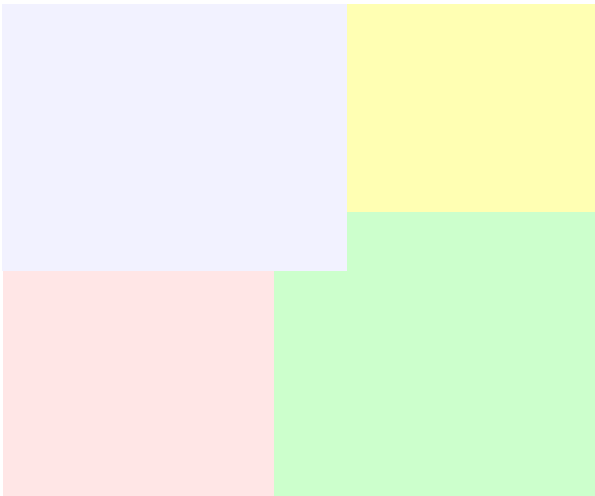
小倉1800芝:直271m角428m直379m角428m直293m坂000m

スタート地点は正面スタンド前の直線真ん中よりやや右。最初の1コーナーまでの距離は約272m。スタート後、100m強進んだところでゴール板を通過。1~2コーナーは上り坂。小倉競馬場は2コーナーのところが最高部(芝コースの高低差は2.96m)3~4コーナーはスパイラルカーブで下り坂。最後の直線距離は293m。仮柵によるコース設定はA、B、Cの3パターン。大半のクラスで、3分割した3ハロンの水準ラップがほぼ同じ数字。実際には前半がもっと速かったり、逆に遅かったりとするはあるが、平均的な流れになりやすいコースだ。重賞は小倉大賞典が組まれている。基本的には夏場の方が時計は速いが、近年は2月でもいい時計が出ている。脚質的には先行馬が有利。Aコース時のみ逃げ馬も先行馬と同じくらい活躍している。一方で、マクリ差しも決まりやすい。枠順は馬場状態がフラットの際には確実に内枠が有利。先行馬なら最初にコーナーに飛び込みやすいし、差し馬は内々で未脚を溜められる。ただし、内の馬場が悪化してくると中枠から外枠が有利になる。種牡馬成績はヘイロー系が断然。タイキシャトル、マンハッタンカフェ、スペシャルウィーク、フジキセキ、ステイゴールド、ダンスインザダーク、ネオユニヴァースと活躍馬が豊富。グラスワンダーやシンボリクリスエスなどロベルト系が良くない。クラス別水準ラップ(3F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( ), 3歳以上500万(36.3-36.3-35.2=1.47.8)、3歳以上1000万(35.9-35.5-35.8=1.47.2)、3歳以上準OP・OP特別(35.4-35.5-35.4=1.46.3)、3歳以上重賞(35.0-35.0-35.1=1.45.1)



# 新馬

2018年08月05日小倉02回04日06R1250発走 新馬 2歳新 馬馬齢1200芝 08頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:20%-10%-9%:  
 先:50%-49%-12%:  
 差:23%-30%-43%:  
 追:4%-8%-34%:  
 先先追:10%--:0点  
 逃先差:8%--:0点  
 先差追:6%--:0点  
 先先差:6%--:0点  
 先差差:6%--:0点  
 差先差:5%--:0点

小倉1200芝:直479m角428m直293m坂000m

スタート地点は向正面直線の2コーナーポケット。小倉競馬場は2コーナーのところが高部(芝コースの高低差は2.96m)になっており、スタート後200mほど下る。3コーナーまでの直線距離は約480m。3~4コーナーはスパイラルカーブで下り坂。最後の直線距離は293m。仮柵によるコース設定はA、B、Cの3パターン。コース形態に伴い、前半の600mはとにかく速い。どのクラスも3秒前半が水準時計。古馬重賞の北九州記念になると3秒台になる。3コーナーの入り口ではあまり速度が落ちないため、4コーナーから最後の直線に入る際のコーナリングは案外難しい。これがスパイラルカーブの特性だが、小倉芝1200mでは特に外に振られやすくなっている。基本的には逃げ-先行馬が有利だが、前後半3ハロンのラップ差が激しいので、前が総崩れになることもある。Cコース時は逃げ馬の成績が多少落ちる。馬場状態もカギとなる。種牡馬成績はサクラバクシンオーが抜けて好成績を挙げている。以下、アグネスタキオン、フジキセキ、キングカメハメハ、クロフネ、フレンチデビュティ。メイショウオウドウ、アドマイヤボス、マーベラスサンデー、アドマイヤベガは不振。クラス別水準ラップ(3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(33.4-35.5=1.08.9)、3歳以上500万(33.5-34.9=1.08.4)、3歳以上1000万(33.5-34.6=1.08.1)、3歳以上準OP・OP特別(33.1-34.6=1.07.7)、3歳以上重賞(32.6-34.8=1.07.4)

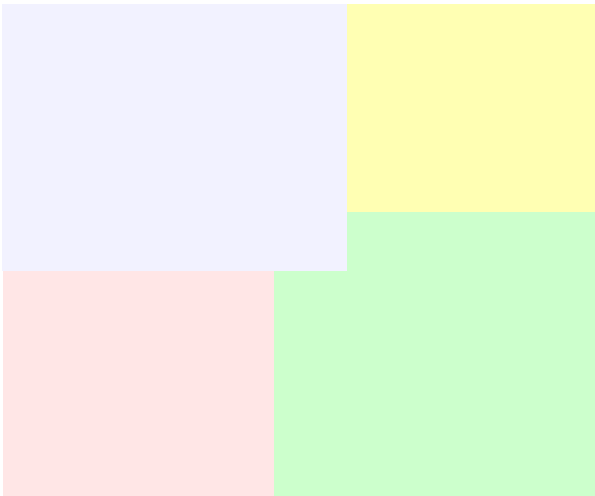


# 未勝利

2018年08月05日小倉02回04日07R1320発走 未勝利 3歳未勝利馬齢2000芝 18頭

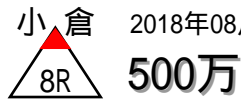
芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃: 7%- 9%- 8%:  
 先: 67%- 38%- 22%:  
 差: 22%- 40%- 42%:  
 追: 2%- 11%- 26%:  
 先差差: 10%- -: 0点  
 先先差: 10%- -: 0点  
 先差追: 10%- -: 0点  
 差先差: 6%- -: 0点  
 先先追: 6%- -: 0点  
 先差先: 5%- -: 0点

小倉2000芝: 直471m角428m直379m角428m直293m坂000m

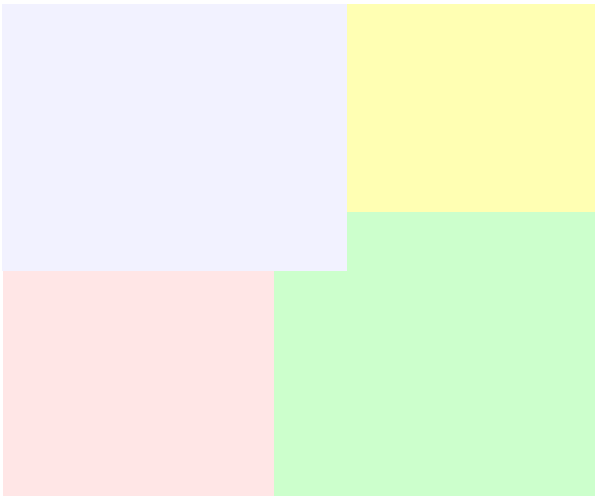


スタート地点は正面スタンド前直線の4コーナーのポケット。最初の1コーナーまでの距離は約472m。1~2コーナーは上り坂。小倉競馬場は2コーナーのところが最高部(芝コースの高低差は2.96m)3~4コーナーはスパイラルカーブで下り坂。最後の直線距離は293m。仮柵によるコース設定はA、B、Cの3パターン。1コーナーまでの距離が十分にあるので、普通は極端に速くはならないが、直線部分を走る距離が長いこともあり前半3ハロンは芝1800mよりも速い。先行馬が揃うと雁行気味に行って主導権争いとなるので、よりラップが上がる。前半3ハロンがある程度流れて、2コーナーを過ぎて向正面に入ったところでペースが落ち着き、3コーナーに差し掛かる手間でまたピッチが上がるのが特徴。道中の緩むべき部分が短くなりすぎたり、スローペースに落ち着きすぎたりするとマクする馬が出てきて隊列が3~4コーナーで激しく動く。基本は平均ペースだが、ハイペースになったりスローペースになったりと、メンバーや馬場次第でかなり変化する。脚質的には逃げ~先行馬が優勢。差し、追い込み、マクリは芝1800mほど決まらず、能力がないと後方からは差せない。枠順は多頭数になればなるほど外枠が不利。フルゲートの8枠は厳しい。内~中枠が有利。種牡馬成績は芝1800mと同様、ヘイロー系が優勢。ダンスインザダークを筆頭にマンハッタンカフェ、ステイゴールド、スペシャルウィーク、アドマイヤベガが強い。その他ではキングカメハメハ、グラスワンダー、クロフネ。芝1800mに比べれば紛れは少なく、強い馬が来る。 クラス別水準ラップ(3F-4F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( ), 3歳以上500万(35.4-49.4-35.4=2.00.2)、3歳以上1000万(35.3-48.7-35.8=1.59.8)、3歳以上準OP・OP特別(35.2-48.3-35.9=1.59.4)、3歳以上重賞(34.6-48.6-35.0=1.58.2)





2018年08月05日小倉02回04日08R1350発走 500万 3歳上500万定量1700ダ 15頭



ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:25%-13%- 5%:  
 先:55%-58%-19%:  
 差:17%-19%-38%:  
 追: 1%- 8%-36%:  
 先先追:11%--:0点  
 先先差:11%--:0点  
 逃先追:8%--:0点  
 先逃差:6%--:0点  
 差先追:5%--:0点  
 逃先差:5%--:0点

小倉1700ダ:直342m角343m直379m角343m直291m坂000m

スタート地点は正面スタンド前直線の右端。4コーナーの出口からの発走で、最初の1コーナーまでの距離は約343m。1～2コーナーは上り坂で、途中にダートコースの最高位部分を通過。ちなみに小倉ダートコース全体の高低差は2.9m。3～4コーナーはスパイラルカーブ。最後の直線距離は291m。小倉のダート競走の中心舞台で、重賞以外はこのクラスでもレースが組まれている。スタート直後から各馬は飛ばしてポジションを取りに行く。前半500mぐらいいは速いペースとなる。直後の1ハロンでペースが落ち、その後は一定のペース。全体的には淀みない流れで、ラストの上がりがかかりがち。逃げ～先行馬はほぼ互角の成績。差し馬の連対率は逃げ～先行馬の1/3ほどに下がり、追い込み馬はもっと厳しい。序盤のポジションが後ろの馬はマクれないとダメ。要は4コーナーでは好位にいななければならない。乱ペースになることも多く、マクリは結構決まる。枠順は大外枠が不利。人気を背負った強い馬でも大外枠を引いた場合は、苦しい競馬になる。最内も諸刃の剣で、中枠が一番無難。種牡馬成績はキングカメハメハ、シンボリクリスエス、ワイルドドラッシュ、アフリート、クロフネらが上位。パブルガムフェロー、フォーティナイター、ジャングルポケット、トワイニング、マジックマイルズらほひとつ息。クラス別水準ラップ(2.5F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(29.8-38.8-37.8=1.46.4)、3歳以上1000万(29.8-37.7-37.9=1.45.4)、3歳以上準OP・OP特別(29.9-37.5-36.9=1.44.3)、3歳以上重賞( )



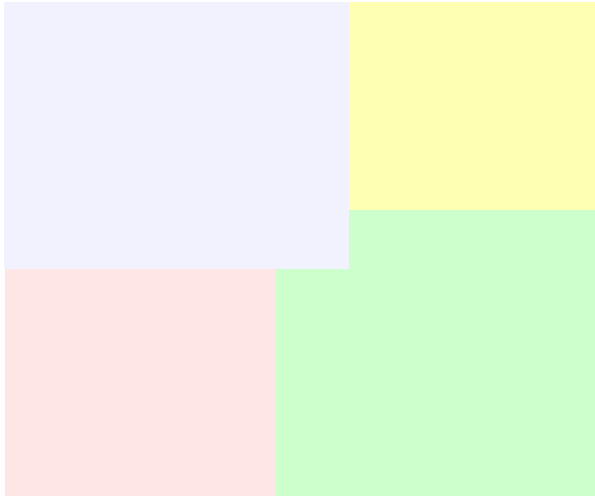
2018年08月05日小倉02回04日09R1425発走

3歳上500万定量1700芝 10頭

CapStone

# 青島特別

2018年08月05日小倉02回04日09R1425発走 青島特別 3歳上500万定量1700芝 10頭



芝良:  
芝稍:  
芝重:  
芝不:  
ダ良:  
ダ稍:  
ダ重:  
ダ不:  
逃:25%-25%- 0%:  
先:25%-50%-50%:  
差:50%-25%-50%:  
追: 0%- 0%- 0%:  
差先差:25%--:0点  
差逃差:25%--:0点  
先差先:25%--:0点  
逃先先:25%--:0点

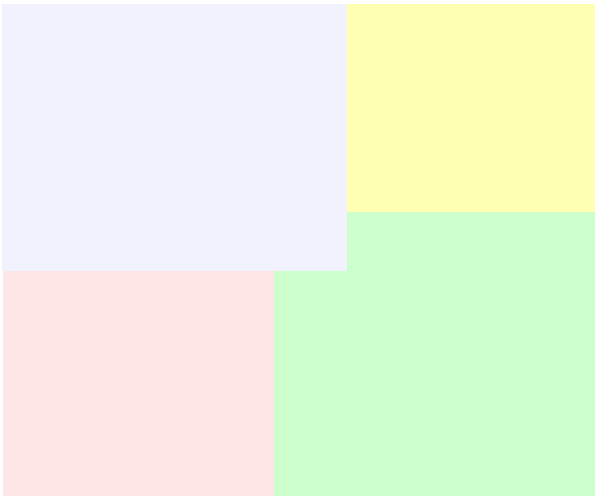
小倉1700芝:直171m角428m直379m角428m直293m坂000m

スタートは正面スタンド前の直線の真ん中付近。スタート後、間もなくゴール板を通過。最初の1コーナーまでの距離は約172mとかなり短い。1~2コーナーは上り坂になっている。小倉競馬場は2コーナーのところ最高部(芝コースの高低差は2.96m)3~4コーナーはスパイラルカーブで下り坂。最後の直線距離は293m。仮柵によるコース設定はA、B、Cの3パターン。芝1700mは当競馬場においてマイナー条件で、夏場の3歳以上500万クラスが中心。鞍数もあまり多くない。古馬500万クラスの水準ラップ(2.5F-3F-3F)と勝ち時計(良馬場)は、30.0-35.0-35.8=1.40.8。最初の1コーナーまでの距離が短いため、主導権争いは1~2コーナーまで続くことになり、自然とペースが速くなる。中盤の600mより後半の600mの方が時計がかかっていることから、終盤まで脚を温存する競馬にはなりにくい。平均から平均より速めのペースで流れ、マイル戦的なレースになる。ローカルコースだけにすんなり単騎でハナを奪っての一発は警戒しなければいけないが、力がある馬でないと逃げ切るのは難しい。好位から行ける先行馬か、マクれる差し馬が強い。追い込みが最も厳しい。枠順(フルゲートはAコースが14頭、Bコースが12頭)は通常、外が少し不利。スタート後すぐは馬群が広がり気味に1コーナーに突入するので、距離ロスが生じる。種牡馬成績はダンスインザダーク、アドマイヤベガ、ステイゴールドなどサンデーサイレンス系が割と上位を占める。クラス別水準ラップ(2.5F-3F-3F)と勝ち時計2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(30.0-35.0-35.8=1.40.8)、3歳以上1000万( )、3歳以上準OP・OP特別( )、3歳以上重賞( )



# 天草特別

2018年08月05日小倉02回04日10R1500発走 天草特別 3歳上1000万定量1700ダ 10頭



ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 逃:25%-13%-5%:  
 先:55%-58%-19%:  
 差:17%-19%-38%:  
 追:1%-8%-36%:  
 先先追:11%--:0点  
 先先差:11%--:0点  
 逃先追:8%--:0点  
 先逃差:6%--:0点  
 差先追:5%--:0点  
 逃先差:5%--:0点

小倉1700ダ:直342m角343m直379m角343m直291m坂000m

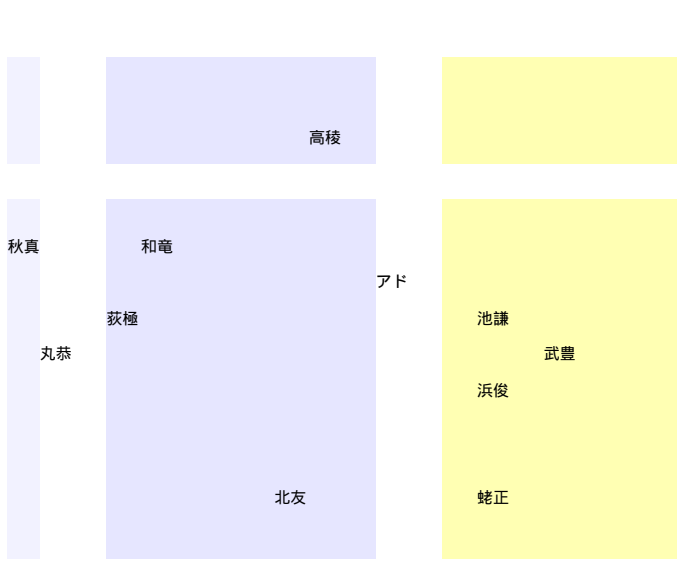
スタート地点は正面スタンド前直線の右端。4コーナーの出口からの発走で、最初の1コーナーまでの距離は約343m。1~2コーナーは上り坂で、途中にダートコースの最高位部分を通過。ちなみに小倉ダートコース全体の高低差は2.9m。3~4コーナーはスパイラルカーブ。最後の直線距離は291m。小倉のダート競走の中心舞台で、重賞以外はこのクラスでもレースが組まれている。スタート直後から各馬は飛ばしてポジションを取りに行く。前半500mぐらいいは速いペースとなる。直後の1ハロンでペースが落ち、その後は一定のペース。全体的には淀みない流れで、ラストの上りがかかりがち。逃げ~先行馬はほぼ互角の成績。差し馬の連対率は逃げ~先行馬の1/3ほどに下がり、追い込み馬はもっと厳しい。序盤のポジションが後ろの馬はマクれないとダメ。要は4コーナーでは好位にいななければならない。乱ペースになることも多く、マクリは結構決まる。枠順は大外枠が不利。人気を背負った強い馬でも大外枠を引いた場合は、苦しい競馬になる。最内も諸刃の剣で、中枠が一番無難。種牡馬成績はキングカメハメハ、シンボリクリスエス、ワイルドドラッシュ、アフリート、クロフネらが上位。パブルガムフェロー、フォーティナイター、ジャングルポケット、トワイニング、マジックマイルズらほひとつ息。クラス別水準ラップ(2.5F-3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( ), 3歳以上500万(29.8-38.8-37.8=1.46.4)、3歳以上1000万(29.8-37.7-37.9=1.45.4)、3歳以上準OP・OP特別(29.9-37.5-36.9=1.44.3)、3歳以上重賞( )

小倉記念G3

752 12.0 浜俊 Mデ 679 20.8 和竜 651 5.9 アド 627 13.9 蛭正 618 5.2 池謙

Table with 12 columns: Race No., Time, Jockey, Trainer, Horse Name, Age, Sex, Weight, Sire, Dam, Bloodstock, etc. Contains detailed race data for the 11R1535 event.

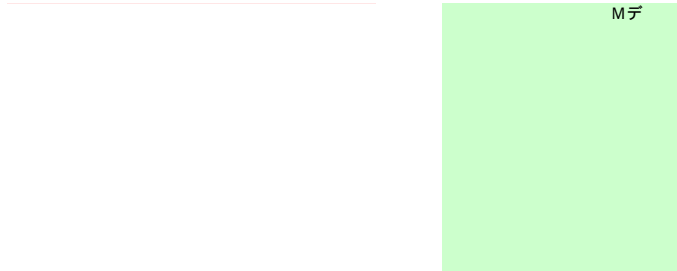
2018年08月05日小倉02回04日11R1535発走 小倉記念G3 3歳上OPEN ハテ 2000芝 12頭



芝良: 芝稍重: 芝不: 芝良: 芝稍重: 芝不:

逃: 7%-9%-8%: 先: 67%-38%-22%: 差: 22%-40%-42%: 追: 2%-11%-26%: 先差差: 10% - - :48点 先先差: 10% - - :48点 先差追: 10% - - :16点 差先差: 6% - - :48点 先先追: 6% - - :12点 先差先: 5% - - :48点

小倉2000芝: 直471m角428m直379m角428m直293m坂000m

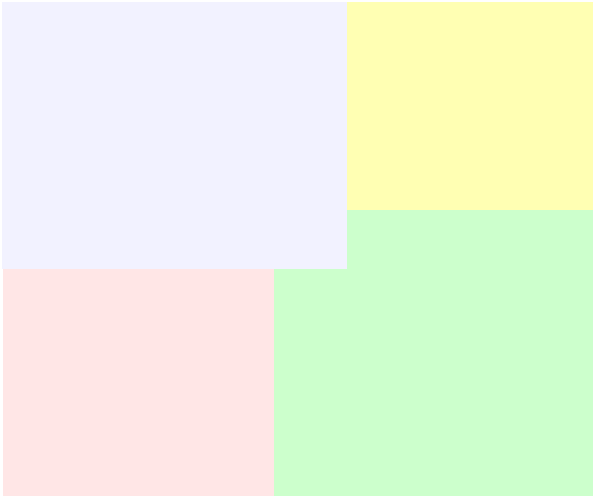


スタート地点は正面スタンド前直線の4コーナーのポケット、最初の1コーナーまでの距離は約472m、1~2コーナーは上り坂。小倉競馬場は2コーナーのところが高部(芝コースの高低差は2.96m)3~4コーナーはスパイラルカーブで下り坂。最後の直線距離は293m。仮柵によるコース設定はA、B、Cの3パターン。1コーナーまでの距離が十分あるので、普通は極端に速くはならないが、直線部分を通る距離が長いこともあり前半3ハロンは芝1800mよりも速い。先行馬が揃うと雁行気味に行き主権争いとなるので、よりラップが上がる。前半3ハロンがある程度流れて、2コーナーを過ぎて向正面に入ったところでペースが落ち着き、3コーナーに差し掛かる手間でまたピッチが上がるのが特徴。道中の緩むべき部分が短くなりすぎたり、スローペースに落ち着きすぎたりするとマクする馬が出てきて隊列が3~4コーナーで激しく動く。基本は平均ペースだが、ハイペースになったりスローペースになったり、メンバーや馬場次第でかなり変化する。脚質的には逃げ~先行馬が優勢。差し、追い込み、マクリは芝1800mほど決まらず、能力がないと後方からは差せない。枠順は多頭数になればなるほど外枠が不利。フルゲートは8枠は厳しい。内~中枠が有利。種牡馬成績は芝1800mと同様、ヘイロー系が優勢。ダンスインザダークを筆頭にマンハッタンカフェ、ステイゴールド、スペシャルウィーク、アドマイヤベガが強い。その他ではキングカメハメハ、グラスワンダー、クロフネ。芝1800mに比べれば粉々は少なく、強い馬が来る。クラス別水準ラップ(3F-4F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞( )、3歳以上500万(35.4-4.9-4.3-5.4=2.0.0.2)、3歳以上1000万(35.3-4.8-7.3-5.8=1.5.9.8)、3歳以上準OP・OP特別(35.2-4.8.3-3.5.9=1.5.9.4)、3歳以上重賞(34.6-4.8-6.3-5.0=1.5.8.2)



# 筑紫特別

2018年08月05日小倉02回04日12R1615発走 筑紫特別 3歳上500万定量1200芝 14頭



芝良:  
 芝稍:  
 芝重:  
 芝不:  
 ダ良:  
 ダ稍:  
 ダ重:  
 ダ不:  
 逃:20%-10%- 9%:  
 先:50%-49%-12%:  
 差:23%-30%-43%:  
 追: 4%- 8%-34%:  
 先先追:10%--:0点  
 逃先差:8%--:0点  
 先差追:6%--:0点  
 先先差:6%--:0点  
 先差差:6%--:0点  
 差先差:5%--:0点

小倉1200芝:直479m角428m直293m坂000m

スタート地点は向正面直線の2コーナーポケット。小倉競馬場は2コーナーのところを最高部(芝コースの高低差は2.96m)になっており、スタート後200mほど下る。3コーナーまでの直線距離は約480m。3~4コーナーはスパイラルカーブで下り坂。最後の直線距離は293m。仮欄によるコース設定はA、B、Cの3パターン。コース形態に伴い、前半の600mはとにかく速い。どのクラスも33秒前半が水準時計。古馬重賞の北九州記念になると32秒台になる。3コーナーの入り口ではあまり速度が落ちないため、4コーナーから最後の直線に入る際のコーナリングは案外難しい。これがスパイラルカーブの特性だが、小倉芝1200mでは特に外に振られやすくなっている。基本的には逃げ-先行馬が有利だが、前後半3ハロンのラップ差が激しいので、前が総崩れになることもある。Cコース時は逃げ馬の成績が多少落ちる。馬場状態もカギとなる。種牡馬成績はサクラバクシンオーが抜けて好成績を挙げている。以下、アグネスタキオン、フジキセキ、キングカメハメハ、クロフネ、フレンチデビュティ。メイショウオウドウ、アドマイヤボス、マーベラスサンデー、アドマイヤベガは不振。クラス別水準ラップ(3F-3F)と勝ち時計 2歳OP特別・重賞(33.4-35.5=1.08.9)、3歳以上500万(33.5-34.9=1.08.4)、3歳以上1000万(33.5-34.6=1.08.1)、3歳以上準OP・OP特別(33.1-34.6=1.07.7)、3歳以上重賞(32.6-34.8=1.07.4)